

平成 11 年度

まちづくり懇談会

記録誌



平成 12 年 2 月

入 善 町

目 次

1、 実施要領	1
2、 開催一覧表	2
3、 まちづくり懇談会記録	
(1) 入善地区	3
(2) 上原地区	8
(3) 青木地区	14
(4) 飯野地区	20
(5) 小摺戸地区	26
(6) 新屋地区	31
(7) 棚山地区	41
(8) 横山地区	49
(9) 舟見地区	56
(10) 野中地区	65
4、 ご意見カード集約	74

「まちづくり懇談会」実施要領

1、趣旨

住民からの意見聴取や広報・広聴活動を拡充し、住民の意見を把握・反映するため「まちづくり懇談会」を開催する。

2、開催日

11月12日から11月27日にかけて10地区で開催

3、開催方法

① 座談会を大きく2部制にした。

事前に地域からまちづくりのテーマを出してもらい、町政全般にわたるもの「まちづくり」、地域にとって課題となっているもの「地域課題」などについて、当局と住民がまちづくりをテーマに話し合う。

② 座談会進行は地元と町で進める。

地元1名、町1名の2名で進行する。

③ 要望事項の回答

道路、用排水路改修などの要望事項は後日文書で回答する。

④ 出席者

町長、助役、収入役、教育長その他、課題別に応じて担当課長が出席する。

⑤ ご意見カード

当日出席者に配布し、まちづくりに関して意見要望、提言を書いてもらい、終了後または後日に提出してもらう。

○ まちづくり懇談会の式次第（2時間めど）

- 1、開会あいさつ（区長会）
- 2、町政についての現況説明（町長）
- 3、総合計画策定について概要説明
- 4、座談会 第1部「まちづくり」 第2部「地域課題」 進行は町1、地元1名
- 5、座談会まとめ（助役）
- 6、地元議員あいさつ
- 7、閉会（区長会）

平成11年度 まちづくり懇談会 開催一覧表

日	12	15	16	17	18	19	20	22	26	27	
曜 日	金	月	火	水	木	金	土	月	金	土	
地 区	梶 山	新 屋	青 木	横 山	舟 見	飯 野	入 善	野 中	上 原	小摺戸	
会 場	梶山地区公民館	新屋地区公民館	働く婦人の家	横山漁村センター		舟見コミュニティ公民館	環境改善センター	勤労者福祉センター	農村婦人の家	産業展示会館	小摺戸地区公民館
要望提出日	11月1日(月)	11月2日(火)	11月1日(月)	11月1日(月)	11月9日(火)	11月10日(水)	11月8日(月)	11月12日(金)	11月11日(木)	11月18日(木)	
打合せ日	11月4日(木)	11月9日(火)	11月10日(水)	11月9日(火)	11月16日(火)	11月10日(水)	11月11日(木)	11月16日(火)	11月16日(火)	11月20日(土)	
区長会長名	中川 久義	長谷 友義	杉澤 孝	黒部 恒一	野島 政博	井田 榮一	澤田 俊彦	大割 恒男	寶田 和男	松原 勝之	
總司会	中川 久義	盛田 親義	吉澤 令元	永山 博	野島 政博	下村 榮二	長谷 孝一	大割 恒男	川口 稔	松岡 幸男	
座 長	青木 大政	盛田 親義	西川 宗勝	池原 賢晴	樽井 弘和	岩田 嘉顕	岩場 勝郎	板東 久男	小路みつ子	長谷川 喜一	
副座長	藤田 義治	大角 秀雄	藤田 義治	藤田 義治	藤田 義治	藤田 義治	大角 秀雄	大角 秀雄	藤田 義治	藤田 義治	
テーマ	・少子高齢化問題	・下水道問題	・公的研究機関の誘致・設置、町の活性化	・少子高齢化問題 (各種老人福祉施設サービスの充実)	ふれあいバスについて	・海洋深層水事業の説明	福祉対策について ・介護保険問題 ・少子化対策	・県道黒部・朝日公園線の拡幅について	高齢者対策と子育て支援について	リサイクル法について	
	・学校週休2日制	・農業問題	・少子化対策	・青少年の健全育成	・深層水、ふれあい交流プラザのわかりやすい説明と理解	・農業の後継者育成と農業公社の設立指導の検討について	商店街の空洞化対策について	・下水道事業計画について	・米価の低迷と農業の振興対策	農業問題について	
	・新幹線整備に伴う在来線問題	・芸術文化、自然及び環境問題	・学校週休2日制	・ゴミ、リサイクルの問題	舟見地区のまちづくり ・福祉施設の充実 ・介護制度について ・高齢者対策について ・雇用の創出 ・観光開発	・住民参加のまちづくり		あぐり館の施設設備充実 ・研修室への冷暖房装備 ・[シソ入り、アマランサス茶]への生産体制、販売体制への支援	上原地区の生活環境整備 ・道路、交通網整備	介護保険制度について	
	・梶山地区交流センターについて		離岸堤の設置	自然環境を生かした「住み良い入善町、住みたい横山地区づくり」について ・海洋性レクリエーション基地、海浜公園の整備	・舟見小学校跡地の利用について	・地下水位の低下について			・旧上原小学校跡地の整備	人口問題について	
	・ゴミ収集について			・〃 海岸保全・美化・景観について	・上下水道の整備について	・下水道工事の進捗状況と町民負担について			・杉沢の沢スキの整備	新幹線整備に伴う沿線住民の問題について	
				・〃 国道8号に通じるアクセス道路の整備		・公民館の施設整備について					
ポスター枚数	14	9	11	14	9	28	26	7	14	10	
終了時間	10:10 PM	9:50 PM	10:00 PM	10:20 PM	9:50 PM	10:10 PM	9:30 PM	9:25 PM	9:50 PM	9:30 PM	
庁内出席人数	18	16	16	15	15	16	17	14	17	16	
参加住民人数	72	43	85	38	64	63	84	53	122	51	
(参考)世帯数	563 12.8%	635 6.8%	546 15.6%	563 6.8%	236 27.2%	1476 4.3%	2283 3.7%	236 22.5%	928 13.2%	399 12.8%	

入善地区まちづくり懇談会

平成12年11月20日（土）
19：30～勤労者福祉センター

出席者 地区住民84名、 町当局17名

1. 開会の挨拶（澤田俊彦区長会長）
2. 町政について現況説明（米澤町長）
3. 総合計画策定について概要説明（大木企画広報課長）
4. 座談会（座長・岩場勝郎氏）

第1部（まちづくり）

（1）介護保険について

☆住民 介護保険料の算定方法は。

★上田健康福祉課長

在宅や入所施設など、いろいろなサービスを受ける際の現行の費用を元に計算される。1市3町の中にある特養ホーム310床で1日いくらかかるのか、ホームヘルパー、ショートステイなど必要な費用額が3年間で150億円が予定され、1年間で50億、この費用をどのように負担するかということである。1割は本人、90%×1/2は保険料として40歳以上が負担、残りは国、県、町が負担する。1号保険者・65歳以上の人を1市3町の人口で割ると月2884円という額が出た。全国平均が2885円、県内9つの保険者では3000円前後である。現在2884円だが、来年1月に決定される。恐らく2884円を上回るであろう。新川地域は約3000円を予定している。

一方、40～64歳の2号保険者は、全国一律の額で計算され約3000円。医療保険に上乗せされる。半額が本人、事業主が半分。国保は国が半額負担する。来年3月に確定の予定である。

☆林勝昭氏 どういうときに、介護保険が受けられるのか。

★上田健康福祉課長

段階によってサービスの内容が違う。例えば、

- ①ホームヘルパーが1週間に1回程度派遣され、風呂の手伝い、掃除などをうける。
- ②家で生活が難しい為、デイサービスや日帰りで風呂にはいるとか。

③家で生活が出来ないため、特養ホームなどに入る。

などがあるが、現在、舟見寿楽苑の100床は満杯で、入所判定を受けて入れない人は60名近くいる。そのため、第2の特養ホームの建設を計画している。このほか、小杉にある民間の老人保健施設・こぶしの庭は自宅で生活できない人が1～3ヶ月滞在する施設などがある。ともかく、その人が1ヶ月、又は1週間というサービスが必要か要介護度を1～5段階に判定する。また、「介護サービスが必要ない」と「要支援」を入れると6段階に分かれたサービスが提供される。

☆住民 判定から洩れたときは。

★上田健康福祉課長

サービスを受けたいと申請して、ダメと判定されたときは、1市3町で協議した結果、現在受けているサービスについては継続して受けられるよう合意されている。新たな人についても、状況を見ながら、サービスが受けられるよう町も予算化していきたい。

☆住民 介護保険の見直しが出てきたが。

★上田健康福祉課長

新聞等で報道されているが、まだ決定されていない。その内容は、65歳以上の1号保険者は、3年間保険料を徴収せず、半年間は無料となる。その半年後は1／2で、利用者にとっては安くなるので喜ばれるであろう。昨日の新聞では、全国の首長の反応は非常に困惑している、とのこと。財源は赤字国債で、国民への将来の負担になってくる。

☆住民 保険料の納入方法は。対象外はあるのか。また、町民全員か。

★上田健康福祉課長

40歳以上の人は全員加入し、保険料を納入しなければならない。65歳以上の人は年金から天引きされる。又、月額15000円以下の受給額の少ない人は、天引きしないで町の納付書で納めてもらうこととなる。

☆住民 保険料の滞納が心配されるのではないか。

★上田健康福祉課長

町でも心配しているが、自分で納める普通徴収は滞納になるケースが出て

くる。滞納の場合はペナルティーがあり、保険料を納めないでサービスを受けた場合、全額自己負担となる。又、保険料を払えない人や誰が見ても生活に困窮する人には減免の制度がある。

(2) 少子化対策について

☆住民 結婚難は全国的な問題で、町として例外ではない。昭和58年、入善町農協で結婚相談所を開設し、これまでやってきたが、最近は効果が薄れてきている。今後は行政と連携してこの問題に当たるべきと思うが行政はどう考えているか。

★米澤町長

どこの地区でもこの結婚問題が出ている。今から20～30年前とは生活様式が違い、3交替勤務の企業も多く、出会いの機会が少ないのも原因の一つと考える。町としても、出会いの場を設け、きっかけを作ることが必要と考える。町と農協がタイアップして行うとか、そういう人を養成して、有償で仕事としてやってもらうとか、皆さんからもアイデアがあれば寄せてほしい。

☆住民 学校から帰っても誰もいない家もあり、子供を産みたくても産めない状況がある。小学校など放課後の児童対策は。

★上田健康福祉課長

カギっ子対策の1つとして、今年4月に入善町児童センターがオープンした。入小、桃李小、上青小の子供が主に来ているが、本来は校下単位に設置できればよいのだが、各地区に公民館があり、これを利用して欲しい。しかし、指導者がいないので今後の課題と考える。

☆住民 名古屋では、学童保育をやっている。預ける父兄が負担し、市も補助を行っている。

★上田健康福祉課長

公民館を利用するなど、国の制度がないか検討し、入善や青木など他の地区のどこかでモデル地区として考えてみたい。

☆川瀬さん 高齢者や子供との異世代の交流を図ることにより教育もできる。

★上原生涯学習・スポーツ課長

少子化は難しい問題と受け止め、町としてはなんとか歯止めをかけたい。公民館は、異世代の交流の場、子供同士のふれあいの場所として、期待されている。今後、新しい事業の展開を考えたい。

(2) 商店街の空洞化対策について

☆住民 大型店進出問題がクローズアップされている。進出に伴い商店街の空洞化、停滞化している。町の取り組み、ビジョンを聞かせてほしい。

★飛田商工観光課長

東洋紡入善工場の織布部門の閉鎖、農業の問題も含め、雇用情勢は非常に厳しい。又、商店街の空洞化が目立ってきているため、今年度から町と商工会が市街地活性化対策事業に取り組んでいる。商工会では、平成6年度から空き店舗対策事業を進めたり、町でも10年度からとれたて朝市にゆうぜん等を実施している。今後とも、商工会と連携をとりながら、新しい試みにチャレンジしていきたい。

また、大型店進出問題は、関係機関と協議しながら結論を出していきたい。

★米澤町長

中心市街地活性化対策については、昨年から鋭意取り組んでいる。下水道事業は13年10月に供用開始の予定。中心街も工事に入るが、これに併せて町の道路の再整備を進めていきたい。

☆住民 中心市街地については深く長い問題になろう。農協スーパーも大きな赤字であり、危篤状態である。何か名案はないか。

☆鷺尾さん

(株)みったプラント4について意見を述べたい。プラント4は売り場面積4000坪、敷地2万坪の大型店と聞いている。中心市街地活性化の問題に取り組む矢先にこの問題が出てきた。

町の平成9年度の日常生活品219億の売り上げ。コスモ21ときららで85億、残りは中心商店街134億となっているが、「みった」が来ると残りは34億となる。福井坪井のプラント2は平成7年9月に立ち上げ、売り上げ78億円、11年9月には296億円にのぼっている。小売店と大型店の問題は、まちづくりの視点で考えてみる必要がある。みったが来るとどういうメリットがあるのか。固定資産税3000万円、売り上げのほとんどが本社に吸い上げられ、雇用人員も大したことがない。商店街だけでなくコスモ

21, きららの里に大きな打撃や影響がある。黒部のサティで10%落ち、魚津のアピタでまた落ちる。入善町219億から、入善町へ坪井の296億の倍のものが来る。プラス面はないと思う。どう考えても地域経済は持たない。こういった中でまちづくりは可能なのか。商店街の立場を申し上げ、町、議会の対応をお願いしたい。

★米澤町長

議会でもこの問題が出ている。先日、みった社長が町へ来られたが、今は判断が出来ない、と申し上げた。現在町では、中心市街地活性化問題にも取り組んでおり、大型店の進出問題には困惑している。とにかく、活性化は進めたい。

☆田中さん

(チラシを会場に配りながら) 環境ホルモンの元凶は、除草剤である。住民の健康問題、環境保全のために、環境に関する講師を呼び、話を聞くことがいいのでは。講演会をどんどん開いてほしい。

☆区長 福祉会館がふさがっていることが多い。入善に地区公民館がない。町としてどう考えているのか。

★上原生涯学習・スポーツ課長

地区公民館は各地区にあるが、入善地区は武村福祉会館、町民会館、勤労者福祉センターなどがあり、元町にはそれなりの施設が整っている。現在、懸案となっているのは柵山地区であり、少子化対策を含め、総合計画の中で考えていきたい。

☆住民 武村福祉会館から町民会館までのところを、もう少し明るくしてほしい。街頭をつけてほしい。

★上原生涯学習・スポーツ課長

明るいまちづくりに努めたい。

5、まとめ(木本助役)

6、地元議員あいさつ

7、閉会 P m 2 1 : 3 0

上原地区まちづくり懇談会

平成11年11月26日（金）

19：30～産業展示会館

出席者 地区住民122名 町当局17名

1. 開会の挨拶（寶田和男区長会長）
2. 町政についての現況説明（米澤町長）
3. 総合計画策定についての概要説明（大木企画広報課長）
4. 座談会（座長・小路みつ子氏）

第1部（まちづくり）

（1）高齢者対策と子育て支援について

もうすでに少子化社会に突入している。子供を産みたくても産めない実状が少子化に拍車をかけている。吉原保育所がいつかなくなるのではないかと心配している。小さい子から保育所で24時間預かるとか、安心して子供を産み育てる社会づくりを町はどのようにしているか。

介護が必要な人への取り組みは国で始まっているようだが、しかし、大部分は元気老人である。入善町でも、高齢化が進んでいるのではないか。吉原地区でもかなり高齢化が進んでいるようであるが、JA女性部では元気老人を支援している。毎月1日75歳以上の一人ぐらし老人に声かけ運動や年2回花のプレゼントなどを行っている。毎月1回舟見寿楽苑へシート交換、花壇づくりも行っている。町では、高齢者のキャリアを活かした施策を入れてほしい。託老所やシルバールームの設置など、老人の力を活かすことが大事である。

○関連意見

☆西村三夫氏

少子高齢化というのは全国的な問題であり、一番キーポイントとなる問題である。高齢者とはいくつからか。元気な人はシルバー人材センターへ行っている。しかし、元気だからといって、一人ぐらし老人が死んでいるのに気づかないということもありうるので、目配り、気配りにどう対応しているか。

子供を産むには経済的な問題もあるが、女性の価値観が変わった。経済的に余裕ができて結婚しなくてもいい、子供を産むのはいやだという人が増えてきたのかもしれないが、女性の方も早く結婚して子供をつくってほし

い。

☆北尾さん

元気な年寄りは、家でいらないものと思われている。生きがいが出る施設、年寄りの楽しめる集まれる施設があって、女性が子供を預けて働ける保育施設と一体化した施設があればいいと思う。

★上田健康福祉課長

安心して子育てできる環境づくりについては、24時間保育は厚生省の認可がおりないので全国でもやっているところはない。夜間保育は午後10時まで県内で2カ所、富山市と高岡市でやっている。働く女性が増えて、子供の数は減っているが入所する子供は増えている。来年度の入所希望者は100名も増えている。低年齢とくに0～2歳児がふえてきた。町としては働きたい人のためにできるだけ希望に応じるようにしている。上原保育所はまだ余裕がある。

元気老人は9割、介護を必要とする老人は1割である。実際は介護を受けない人のための施策が大事であるが、予算はない。シルバー人材センターの登録者は350名いて、活発に活動している。年間売り上げは1億5000万円もあり、松の剪定などは需要に追いつかないほどである。技能を持っている人はぜひ加入をしてほしい。

婦人会のボランティアには感謝する。上原に限らず町内に輪が広がってほしい。町では一人ぐらしの現状を見まわる高齢福祉推進員を設置し、ボランティアで声かけをしてもらっている。緊急通報装置は60カ所の一人ぐらし老人宅に設置してあるが、昔のものは自分で電話をかけなければならなかった。今は安全センターから月1回連絡することになっている。

一方、入善郵便局でも10月から声かけ運動のサービスを始めた。希望者22名の家を月2回、日を決めて集配人が訪ね、結果を町に報告していた。福寿会連合会も同じ仲間として10月から声かけを始めた。施設は今のところないが、建築中の芦崎保育所には老人に気軽に来てもらえるコーナーを作った。

(2) 農業問題について

今の農業は、三ちゃん農業、兼業農家が多い。集団営農で11町作っているが、コストがかかる。今後の農業をどう進めていくか、町の考えを聞きたい。転作を集団でやっているが、県道を挟むと地縁でないといわれる集団でなくなる。国で基準があり決まっているのだろうが、町単独で認めてもらえないか。

★岩田農地係長

今後の農業をどのようにするかという質問であるが、入善町は、米中心の農業形態であり、それ以外は転作作物として作付けされているのが実状である。7月に新農業基本法が制定され、食料自給率が低いということで、米以外の他の作物の自給率を上げることを目標に、今後は麦、大豆などの生産に取り組んでほしいということである。又、農地をできるだけ集積して農業経営を行ってもらい、時間と経費を低くしていく低コスト農業の推進に努めていく。

入善町の農地の流動化率は現在12%となっているが、農家の皆さんの5年後・10年後の農業経営意向アンケートを実施させていただき、現在その集計を行っているところである。このアンケートを基に農業の基本構想を立て、今後の農業振興に役立て行きたい。

転作団地については、国は全国平均で考えるので、できるかどうか分からないが、国に対し働きかけていく。

★林財政課長

今年度は柔軟な対応をしたい考えである。

第2部（地域課題）

（1）上原地区の生活環境整備について

「運動公園の上の方にスーパー農道の計画を」と言っているが、進捗状況はどうか。新幹線ができればローカル線はさびれていく。今すぐは無理でも新幹線駅へのアクセス道路をお願いしたい。町中心部から新幹線、高速道路をつなぐ道路を計画し、放射線状道路を、それをつなぐ環状道路を作ってほしい。

☆寶田和男氏

8号線バイパスの測量に入らせてくれと建設省から連絡があった。ふれあい交流プラザの工事も進んでいる。これらは上原地区に大きな影響を与える。周辺の道路整備をお願いしたい。私たちの利用しやすい、私たちのためになる道を作ってほしいので、地元と行政が一緒に考えていく姿勢で、総合計画に入れてほしい。

☆上原さん

町道でも狭い道が多く、車がふえて傷んでいる。又、拡幅はしたが舗装されず野放しになっている。舗装したりして道路を整備をしてほしい。

☆朝野英明氏

都市計画道路「上野吉原線」の進捗状況はどうなっているのか。また、完成予定はいつになるのか。

★松島建設課長

スーパー農道事業は魚津市宮津から朝日町宮崎間を計画されているが、宮崎にはトンネルが多いので魚津農地事務所では難色を示している。一応法線を引いたが、一番の効果は黒部川にかける橋だと思う。高速道路の橋と国道8号の橋までの間にかかけたい。

平成14年に供用を開始する新黒部駅へのアクセス道路は万全と思う。

8号バイパスについては2市3町で富山工事事務所に陳情に行ってきたが、呉西はめどがついたので、今度は呉東に力を入れたいとのことであった。新屋地区からは土地買収の条件として新幹線の北側に側道を作ってほしいという陳情が出ているので、別枠予算で県へ陳情している。

都市計画道路「上野吉原線」を8号線から吉原までつなぎたいが、上原保育所ときららの里の間に1カ所地権者の同意がまだ得られない。現在、町では2カ所で用地交渉が難航しているので、町民に協力をお願いしたい。

上原地区から40本の道路整備の要望がきているが、町では、1市町村に1本の道路しか補助金がこないのので、それ以外は起債で幹線道路の整備をしている。上原は入膳元町に近く力を入れたいので、用地買収の際は協力してほしい。

☆金田さん

邑町に黒部川のかんがい事業で農水省の職員50人が住んでいた頃は明るかったが、今は空き家の上、周辺の電柱の電球も消え、真っ暗である。小学校跡のプールや施設跡地は会検のため取り壊せないといってそのままになっているが、管理や防止上好ましくないのので、なんとか周辺の環境整備してほしい。

☆小路みつ子さん

プールのまわりにオートバイの若者が集まったり、建物も青年団が使うことになっているがあまり活用されてない。周辺には放置自転車が置かれたりして困っている。国営かんぱいの寮があいているが、有効活用できないか。

☆福山さん

老人福祉センターのふろが狭いので、広くしてもらえないか。又、児童セ

ンターを作って異世代交流をしたい。

☆寶田和男氏

上原産業展示会館は利用しやすいので、利用率が高い。上原学校跡地に増設したらどうか。

★林財政課長

旧小学校の跡地については、昨年地元と相談しながら総合計画に載せる約束をした。旧国営かんばい事務所と、老朽化した校舎の下は体協倉庫、上は青年団が使うことになっていたが利用されていない。土地改良区合併の気運があり、それまでは改良区事務所をシルバーの倉庫として考えている。プールにある物置のガラスが割られたり、タバコの吸い殻が捨てられたりするので、危ないのでこれだけは壊す。また、壊さなければならない学校のプールは5カ所もあり、1つ壊すのに1500万かかるので、総合計画に盛り込みたい。照明については消防屯所にはつけたが、暗いのならかんばい事務所の方にもつけたい。特養ホームの建設に着手するため下水道工事などを進め、早急に周辺的环境整備をしていきたい。

★米澤町長

防犯関係についてはなるべく危なくないようにしたい。跡地利用についてはみなさんと話しながら進めていきたい。

(2) 沢スギ

☆柳田さん

沢杉は10年前はゴミ捨て場になっていたが、町のおかげで整備された。年間1万人の人が訪れ、農繁期はじゃまなくらいだ。沢杉の保存には、手をかけるか、又は、何もしない状態がいいのかはわからない。沢杉を訪れた人たちは30～40分見たら帰ってしまうので、それを止める意味で、園家山、沢杉、じょうべのまをつなぐサイクリングロードを作ればどうか。

☆宝泉さん

保育所の保護者参観で沢杉に子供たちを連れていったが、遊歩道が濡れていて滑って危なかったのだから何とかしてもらえないか。

★上原生涯学習スポーツ課長

杉沢の沢スギは昭和48年8月に国の天然記念物の指定を受けてから25

年経過した。昭和60年に全国名水百選にも選ばれ、自然環境保護指定を受けるなどしている。平成6年から3年かけて6500万円で自然館もできた。「自然を愛する会」で作った解説書のパンフレットも好評である。施設は整備したので、自然にふれあう事業を今後みなさんの意見を聞きながら沢杉を守っていききたい。沢杉の保存には、手を加えるなというのと、ある程度加えなさいという2つの方法があるが、今は後者の方針なので落葉後も整備していききたい。歩道の板をこすっても穴を開けてもすべるので、雨上がりは気をつけて歩いてほしい。

☆住民

文化庁が6500万円でインフラ整備したと聞いたが、100パーセント補助か。

★金沢文化係長

文化庁から事業費1億3000万の1／3、県からは1／4＋1／6を3年間でもらった。

5. まとめ（米澤町長）

6. 地元議員あいさつ（板川議員・元島議員）

7. 閉会 21：49

青木地区まちづくり懇談会

平成11年11月16日（火）

19:30～働く婦人の家

・出席者 地区住民85名 町当局16名

1. 開会の挨拶（杉澤孝区長会長）
2. 町政についての現況説明（米澤町長）
3. 総合計画策定についての概要説明（大木企画広報課長）
4. 座談会（座長・西川宗勝氏）

第1部（まちづくり）

（1）若者が集まる町、町の活性化について

入善町に公的な研究機関例えば大学等が来ればいいと思う。入善町は住みよい町だが、魅力のある町ではないと言われている。しかし、日本海、沢杉、海底林、黒部川など自然が豊富で魅力がある。深層水も大きな魅力である。深層水や海底林などを研究する日本海研究所というものでもどうか。このような公的研究機関や大学を誘致する考えはないか。そのことにより若者が定着するのではないか。

★木本助役

入善町は若者の定着率が高い町ではあるが、深層水を利用した研究所があればさらに若者の定着をはかれると思う。総合計画の中で深層水をテーマとした地下水、資源を広く研究する研究所や研究スペースの設置を考えている。

☆広川さん

自然のロマンだけでは語れないことだが、黒部川のダム排砂で入善のワカメへの影響があったと聞いている。この問題をどのように考えているのか。

★松島建設課長

12月1日、土砂管理協議会で排砂の結果について報告があるはずである。いくら砂が流れても砂浜ができない。宇奈月ダムができ、来年3月から湛水すると、出し平ダムと連排砂されるのものと考え。土砂の影響は、沖合に堆積はしていないが、この排砂が深層水にどのような影響があるのか分からない。

☆泉さん

町の活性化のために、学園都市、4年制大学を誘致してもらおうと2000名ほどの若者が入善町に住む。このうちの何十人かが就職して町に残るのではないかな。

★木本助役

学園都市については難しいと考えている。4年制大学誘致については特に難しい。大沢野町のように、大学が生まれるには必然性がある。人材、場所などのいろんな条件がそろっていなければならない。しかし、研究機関はできると思う。町は黒部川扇状地研究所をバックアップしている。大学よりも効果が薄いかもしれないが町民から声が上がってくれば研究所等の設置は可能かと考える。

☆野沢さん

黒部市では黒部川の左岸が公園化されている。入善町側も出来ないのか。名水百選黒部川を宣伝、ひきたてる意味でも、入善側に世界に誇る桜並木などを作れば観光化され、若者も集まるのではないかな。

★松島建設課長

黒部市は建設省とタイアップして公園化している。河川敷の中は建設省が管理している。入善町側も、墓ノ木から浦山新、アサヒ飲料周辺、福島に桜がある。河川敷については、現在、建設省が上飯野で災害復旧工事が完了すれば、水がつかないということで利用が可能となる。公園化となるとかなり事業費がかかるので、総合計画にのればできると思う。

(2) 少子化対策について

町は総合計画で少子化問題を第一にあげている。人口が低下しているということは理解している。結婚しなければ子供ができない。また育児保育等がどのように整備されているのか。

★米澤町長

少子化問題は町の存亡にかかわる大きな問題である。結婚問題については、今と昔では若い人の生活習慣が変わった。今は3交替などが大きな原因で、男女の出会いが少なくなって来ている。結婚よりも働くことが優先されているのではないかな。会社や農協でもやっているように、出会いの時間を作ることも必要ではないかな。出会いの機会をつくるアイデア、いい知恵を出して欲しい。町も真剣に考えたいので皆さんからいい意見があれば聞かせて欲しい。

★松島建設課長

思想、発言の自由が認められる時代であり、結婚をしない人がふえた。また、高齢で結婚し、子供をもつのがイヤだという人もいる。建設課では、各種の事業を支援している。一つは、民間宅地開発補助事業である。開発業者が5000㎡以上の開発をし、一定区画以上の宅地を造成すると、宅地購入者に1区画20万円の補助をするので、土地を買う人が安く買える。二つ目は、町営住宅（東町住宅）の建て替えである。来年度から五カ年で順次建て替えていき、高齢者や若夫婦が住めるようにする。

☆杉沢区長会長

自分は農協の結婚相談委員をやっており、以前結婚問題のスペシャリストの全国セミナーがあった。行政からもたくさん参加しておられた。相談者に農協の名をだすといやがられるので役場でやればどうか。若い人は日中仕事でこれないから相談したい人がいれば役場に来いではなく、別の方法でやればどうか。結婚すれば若夫婦だけで住む人が多いのに、入善には賃貸住宅がないので他町に出る人が多い。子供が出来たら実家に帰ってくるので、3年くらい住宅を貸してやるくらいの気持ちで取り組めばどうか。

☆吉澤令元氏

自分の息子は、結婚しても入善には勤めるところがないので富山に住んでいる。せっかく人口を増やすためにがんばっても、地元で働く場所がなければ定着しないのではないかな。

★飛田商工観光課長

町のおもな企業の来年度の新規採用予定者が30名に満たない。そのうちシロウマと北星ゴムが15名をとる。ほかの企業は採用ゼロカリストラをやりたいという企業が多い。国は企業ベンチャー、シニアベンチャーに支援している。視点を变えて蕨市や銀座、原宿などとの交流をはかることによって、入善の活性化をはかりたい。

☆木本昇氏

入善町は20代が一番多い町である。少子化で一番影響があるのは保育所や学校である。少子化問題は総合計画のなかにある若者の定着とリンクしている。家庭そのものが変わろうとしている。結婚は個人の問題であるから踏み込めない。今年墓ノ木自然公園でハーレーダビッチソンの集会があったが、オートバイだということで偏見で見られるのは若者が事故や問題を起こしやすいからだと思うが、地元の人には新しいことをなんでも排斥する。「みった」問題にしても、議会は

反対ばかりしているだけではだめだ。代案を示せ。何をやるにしても拒否ばかりしては何もできない。教育長に人材育成をどう考えているのか聞きたい。

★米島教育長

次代を担う子供たちをどう育てるかが問題である。平成14年度から学校週休2日制がスタートする。学校では、ゆとりをもって生きる力を身につける教育をする。また、週2日は家庭と地域に子供を返し、そこでいろんなことを体験して、自分で問題を発見し、自分で解決できる子供を育てる。今後はより一層、学校と家庭と地域が一体となって変化の激しい社会に対応できる力を持った子供を育てていく。

第2部（地域課題）

（1）学校週休2日制について

3年前、青木土地改良区の跡地をどのように活用するか利用促進委員会を作り地区で考えた。運営委員会の設置、名前の公募、資源回収で地元から本を出していただいた。寄付を募り、遊具も購入して、昨年6月にオープンしてから680人の子供たちが利用している。そのうち中学生も130人いる。今後の課題としては、13名の方にボランティアで委員をしてもらっているが、今後も継続してお願いしたい。2002年になると学校週休2日制になり、さらに利用が増えると思う。学校でやらないことを異年齢の交流として、ふれあいの場として地区でやっていきたいので、地区民の方にも協力をお願いしたい。

★上原生涯学習スポーツ課長

青木地区は活発な公民館活動をされている。子供を受け入れる施設として入善に児童センターと町児童館があるが、各地区にそれぞれ児童館を設置したいと思っている。青木地区はすでに児童館ができているものと理解している。町としてはパソコンなども配置し、青木地区のボランティアの方々に支えて欲しい。中学生が来るということは素晴らしいことである。青木地区だけにこだわらず、上原、飯野地区の子供たちも受け入れて欲しい。施設設備についても補助していきたい。

☆広川さん

子供たちを預かるということは生命に関わる大変なことである。地元のボランティアに対する補助はないのか。

★上原生涯学習スポーツ課長

児童館であれば謝礼を出すことができるが、公民館の場合はボランティアでやってほしい。

☆大沼勇氏

囲碁倶楽部の会長の立場から、子供たちにもっと囲碁を教えたい。

★上原生涯学習スポーツ課長

いろんな趣味に対して事業費があるが、学習したい科目があって事業に取り組むというのであればたくさんではないが公民館費で対応できる。

(2) 離岸堤の設置について

入善海岸で離岸堤が入っていないのは目川地区だけである。せめて1基だけでもお願いしたい。離岸堤が出来れば砂浜が復活し、海水浴も出来るのではないかな。

★松島建設課長

今日、海岸を見てきた。200メートル先でもしぶきがかかる、今期一番のしけではないかと思った。建設省の離岸堤設置の考え方は、民家のある所から重点的に設置するという考えである。目川は若干遠浅にみえるので、遅れているのではないかな。離岸堤工事費はメートル当たり300万円、設計管理費を含めると400万円で、総額4億円という大変高くつく構造物である。建設省は国土保全の見地から必要だと認識し、順次設置している。町でも積極的に陳情したいのでその際は地元の同行をお願いしたい。

(その他)

☆泉さん

入善町の基幹産業としての農業は担い手が高齢化し衰退気味である。離農者が多くなってきているが、良質田が宅地になり農地も少なくなっていく。やりにくい田が残り受託され経費もかさむ。道路を作ると耕作しにくい三角田ができる。農振除外するときに許可に手心を加えてほしい。農業に対して農業委員会や町はどう考えているか。

★松島（元農政）課長

町の基幹産業は農業であり、今後の農業振興は農業公社を設立し振興を図る。また、公共事業により三角田ができるが、三角田については、稲以外の作物を植えられるか、町独自の作物を考えるなど、町と農協とが連絡を取りあって進め

ていきたい。

☆広川さん

コンピューター２０００年問題について、まちの対応はどうなっているか。年末年始は役場の職員は何人か出られるのか。

★大角広報情報係長

２０００年問題については政府は非常時における水、食料の確保などに対して一番重きをおいている。町では、住民情報システムなどの電算業務については９月４日に模擬テストをした。また、助役をトップとして２０００年問題対策本部を設置し、危機管理計画書を作成した。何かあった時はこれに基づき対応する。町民のみなさんには来月の広報でお知らせする予定になっている。何が起きるかわからないので、住民の方々も適切な対応をお願いしたい。

また、年末年始には、職員が出て待機する。

５．まとめ（木本助役）

６．地元議員あいさつ（松沢議員）

７．閉会 ９：５７

飯野地区まちづくり懇談会

平成11年11月19日（金）
19：30～農村環境改善センター

・出席者 地区住民54人 町当局17人

1. 開会の挨拶（井田榮一区長会長） 19：30
2. 町政についての現況説明（米澤町長）
3. 総合計画策定についての概要説明（大木企画広報課長）
4. 座談会（座長・岩田嘉顕氏）

第1部（まちづくり）

（1）海洋深層水事業について

海洋深層水のことは約1年前に聞き、大変効用のある夢のある資源である。冷たく無菌で栄養がある。いかに利用するか。取水場所から利用地（農地）園家に存在するが、活用するためには推進化する。立地場所には化粧品、飲料水などの関連企業団地を入善で作って入善で販売してほしい。雇用の場もでき、町にお金も入る。活性化につながる。入善西部の工場群でどの程度話が進んでいるか、今後どんな手順で進めるのか。

★鍋谷特定政策推進室長

海洋深層水の概要について述べる。200～300メートル下の海水のことで、上の水と性質が違ふ。栄養があり、無細菌で冷たい。年間を通して1度前後であり、表層水と変わらない、いい水が眠っている。高知と富山が早くから研究しており、富山は県の水産試験場で、高知は企業が中心となっている。おいしくて体にいい食品、アトピーにもきき、新陳代謝を促す。富山ではコーセー化粧品が研究をしている。入善で取水する計画で、短い距離で深いところの水をとる。富山湾は深いので最適である。深層水の一番の目的は水産業の振興である。魚の養殖、病気にかかりにくい、海藻を培養しアワビを養殖する。二番目には水産以外の産業を振興したい。取水して給水する企業団地を作りたい。町ですることにより、活性化がはかれる。県及び町の12月補正予算に上げてもらうことになっている。町議会には深層水特別委員会を設置し、事業を進めていきたい。

（２）農業問題について

農業が曲がり角と言われてから何年か経ち心配している。町の基幹産業でありながら後継者がいない。国をあげての少子高齢化対策と同じように農業の後継者問題も大きな問題である。農業公社を一刻も早く設立して流動化推進に努めてほしい。

☆裏田さん

米１俵１５，０００円ではやっていけない。食料需要４１％国が保護しているが、農産物の価格保障を国がしてくれなければ、後継者は育たない。

☆沼田さん

「みった」という会社が来るという話だが火に油をそそぐようなものだ。農地を守らなければならないのに、なおさら農業が育たない。町の商店のためにもよくない。

★大角農業水産課長

認定農家が２４人おり、５人が研修中で、来年度からの就農に期待している。農業高校生と懇談会を開いたり、新しい人に施設機械を助成支援していきたい。施設園芸、大豆等複合経営など、家族・地域の協力で育てて欲しい。農地銀行と農作業銀行を一体化して組織化し、農業公社の設立を前向きに検討し、農地の貸し借りや農作業受委託、直接経営も考えたい。食料自給率５０％に向けた取り組みが、ＪＡと国が話し合いをやっている。「みった」については、優良農地を守っていきたい。一方、促進させる方法もあるので配慮していきたい。

（３）住民参加のまちづくりについて

★大木企画広報課長

質問の主旨は、町のやっていることをもっと知らせてほしいということかと思う。大変うれしいことである。まちづくりを進めていくために、まちづくり委員を公募し、意見を反映していこうと思っている。職員がサテライト型広聴を考えている。町には各種委員が１７００名いる。今後こういう人たちから公募した委員から意見を聞く。ひとつは、町の政策をつくる過程から参加してもらう。二つ目は行政の手のまわらないところをボランティアにしてもらう。

☆佐原さん

住民参加のまちづくりというのはソフト面が多くふくまれていると思う。シンボルを作る、魂を作るということを言っていると思う。町として何かシンボルを作くってほしい。何を魂とするか、検討してほしい。例えば、なぜ入善という名がついたか、町が生まれた歴史を知りそれを原点（魂）とする。スポーツ面では町一周10地区駅伝をすとか、入中野球部全員を入善高校に入れ、いい監督を雇って町中で感動すとか。

★木本助役

大変むずかしい問題である。学校も道路もひととおりできた。特色ある町づくりがこれからの課題である。魂というのは歴史の先人ということと思う。黒部川扇状地のもたらしたものの、地下水に恵まれている、海洋深層水がとりやすいということも魂と言えるかもしれない。従来は計画を作ること住民アンケートをとった。これからは作ってできあがったものについても町民に参画してもらおう。特に水産については町は素人なので教えてほしい。

☆飯沢さん

県、町の補正予算は規模はどのくらいか。飯野の既存漁業者と協議ができているのか。負の面に対する回答があるのか。もし、漁業者の一部に反対があっても押し進めるのか。

★鍋谷特定政策推進室長

規模については直径20～25cmのパイプを使って、1500m沖合、300mより深い所に取水ポイントを検討している。予算は取水施設7億円。パイプを引くことによる影響はないか水産試験場で調査している。もし取水口に刺し網がひっかかったら町が補償をする。反対を押し切らず十分理解いただいてからする。漁協からは事業推進の要請書が町に既に出されている。

☆本多忠義さん

昨年の町政懇談会でこの建物についてバリアフリー化の促進を要請したのに、未だに何もされていない。福祉会館の入り口もスロープが1つしかなく、遠回りしなければならない。車椅子専用のトイレもない。身障者の立場になって考えてほしい。ふれあい交流プラザについても外観ばかり気にせずに内容について検討し、機器を購入してほしい。

第2部（地域課題）

（1）地下水位の低下について

高島、五郎八、下飯野、芦崎は地下水に恵まれているが、最近自噴の水量が減っている。原因としては住宅の新改築によって家が増えていること、企業の工業用地下水の汲み上げによるものと思う。町は水位の低下をどのように認識しているか。地下水の保全対策をどのように考えているか。条例やガイドラインを作ってほしい。

★飛田住民環境課長

地下水低下について建設省が県内4カ所で調査したところ、町では1年を通じ横這い状態であり、冬には一時低下する。県の調査結果では塩水化もみられない。平成10～12年度に水循環保全施設調査が行われるが、黒部川扇状地も調査されることになっている。この調査結果を見ながら検討していきたい。

（2）下水道事業について

下水道は文化生活のバロメーターと言われている。飯野地区でも13年度から工事が始まる。若い人が都会へ出ていくため、一人暮らしの高齢者が多くなっているが、負担金の納入についてはどうなるのか。長い年月をかけたやり方ができないか。負担金方法について弱者に負担がかからない方法を考えてほしい。

★本多下水道課長

下水道工事は管を順々につないでいく工事である。13年度に神子沢地区から開始する。整備には10年くらいかかると思う。負担金は25万円で、3年間で年4回、つまり12回分割（約2万円／1回）で納めることになっている。負担金の額については議会で条例化した。一人暮らしや高齢者が増えているが、負担金条例では生活保護世帯だけが減免となっている。場合によっては減免することもあると思うが、どういう場合になるかはプライバシーの問題もあるのでこの場で具体的には言えない。

（3）公民館の整備について

従来の公民館活動の理念と現在変わっているところがあるか。飯野地区公民館は改善センターに併設しているが、新しい公民館を建てるとき町の助成はあるか。上飯野新の地区公民館を建て直す場合、助成措置はないのか。

★上原生涯学習スポーツ課長

飯野地区公民館は地域に密着した、子供から大人まで幅広い学習の場所になっている。公民館の理念、考え方は変わっていない。改善センターについては修繕等の経費はすべて役場持ちで整備している。上飯野新公民館についても本体工事、付属施設のみ補助できる。建築費1000万円なら200万円、2000万円なら300万円、3000万円なら400万円まで補助する。130部落のうち103の自治公民館がある。11年度の予定では、園家、舟見3区、荒又地区から要望があるが、上飯野新も要望があれば加えるので、補助金の申請をして欲しい。

★大木企画広報課長

地区公民館への助成はもうひとつ方法がある。宝くじの収益金を利用する制度である。県を通して地方自治センターへ申請する。平成3年には三ツ家公民館、10年には吉原公民館、11年には青木公民館がこれを利用している。1500万円を限度として5分の3を助成する。年間呉西にひとつ、呉東にひとつと制限があり狭き門であるが、相談して欲しい。

(その他)

水は人、国、世界にとって大切な物である。黒部川内水面から鮎のふ化をするために大きな井戸を掘りたいという話があったが、水が出なくなると困るので地区で反対している。町の見解はいかがか。

★大角農業水産課長

内水面漁協では琵琶湖産の稚魚、鮎100万尾とさくらます50万尾を養殖したいが、既存の3本の井戸では足りないので12インチの井戸を掘り、家庭用より下の地水層から1500t／秒汲み上げたいと言ってきた。安全揚水量からすると余裕があるが、自噴水にどのような影響があるかわからないので地区民と話し合っていきたい。また、琵琶湖産の稚魚はここに持ってきても冷水病になって育たないという問題もある。町の立場では、水産業の振興をしていかなければならないので、実現するように協力をして欲しい。

☆飯沢さん

4～5年ダムの排砂が続くと、川底が上がってくるのではないか。

★大角農業水産課長

建設省の管轄なので、まだ把握していない。

☆本多さん

休耕田が多くなっているが、転作作物として菜種を生産し、ディーゼルオイル（菜種油）として利用出来ないか検討してほしい。京都で事例があるが、廃油をエネルギー代替として利用できないか。

★大角農業水産課長

菜種は転作作物にならない。いろいろと制限もあるので、検討させて欲しい。

5. まとめ（木本助役）

6. 地元議員あいさつ（本多議員）

7. 閉会 22:08

小摺戸地区まちづくり懇談会

平成12年11月27日（土）
19：30～小摺戸地区公民館

出席者 地区住民51人、 当局15人

1. 開会の挨拶（松岡幸男区長）
2. 町政について現況説明（米澤町長）
3. 総合計画策定について概要説明（大木企画広報課長）
4. 座談会（座長・長谷川喜一さん）

第1部（まちづくり）

（1）リサイクル法について

☆婦人会

平成12年施行の容器包装リサイクル法について、消費者の意見を反映して、製造・販売業者の自粛など、実効ある取り組み方法を聞きたい。これについて、行政ではどのような取り組みを行っているか。

☆関連質問住民

南部コミュニティ公民館に空き缶回収機があったが、空き缶回収機の設置と、南部地区にも再生広場を設置して欲しい。

★飛田住民環境課長

容器包装リサイクル法は平成12年4月から正式に施行される。リサイクルについては、現在、缶、ビン、ペットボトル、牛乳パックの資源回収を行っている。リサイクル法では、その責任を、製造販売の業者と消費者、行政の三者に求めている。町としては、今後、食品トレー、段ボール等の回収も考えていきたい。業者の指導もしていきたい。地区の皆様には、ビン、缶等を資源物として資源収集ステーションに出されるときには、水で洗って、キャップをはずし、コンテナに分けて出していただきたい。

南部コミュニティにも再生広場を、ということだが、上原地区にあり、他の地区からも要望があり、順次設置計画を進めていきたい。

（2）農業問題について

☆伊林耕栄さん

農業は町の基幹産業である。今年の7月に新たな農業基本法が出来たが、

これからは生産だけでなく、多面的な機能を重視した地域と共存していく農業が求められている。現在の農業は、年々農業所得が減っていく中、後継者難とか、新規就業者の減、放棄田の問題など、どうやっていけばいいのか苦しんでいるのが現状。農業を守る施策が必要であり、これからの農業を皆んなと考えたい。

☆住民

関連して、今年の作況指数は100を超えた。政府は余剰米の17万トン进行飼米に回すとのこと。町として、この割り当てをどうするのか。今年から、豆も麦も転作でなく本作とのことだが、価格の保障はあるのか。自給率を上げるといっても、栽培する者はやっていけない。

★岩田農地係長

農業基本法が変わったことは先ほど言われたとおりである。町の場合は、米を中心にして生産を伸ばしてきた。30年前から転作として減反してきた。転作配分面積は、現在のところ来年も今年と同じという指示で、詳細については未定だが、詳しい情報が分かり次第、皆さんに連絡したい。

町の農業は、水稻を中心に大豆、チューリップ、切り花、酪農など複合的な経営に努力していただいている。米については、生産調整を余儀なくされている。今後とも、良質米生産の持続と有機米など価値の高い米作り、転作作物を取り入れた複合経営、集落営農の推進などによるコスト軽減、専業農家の経営規模拡大と所得の向上、1集落1農産物による農産物の特産化など努力していきたい。

後継者の育成については、経営基盤促進法に基づき、認定農業者を中心に集約化し、現在24名の方がおられる。このほか、中核農家、婦人農業士、青年農業士などを担い手として位置づけ、農業を振興していきたい。

集落営農については現在6地区で設立されているが、簡単に進まないのが現状であるが、今後とも組織化に努力したい。

☆住民

質問に答えていない。余剰米の17万トン分はどのように割り当てるのか。

★木本助役

国政に関わる問題であり、町村会などを通じて申し入れたい。余剰米の処理は未定である。放棄田のことなどいろいろ難しい問題があるが、入善町としてのあり方を考えていきたい。

（３）介護保険制度について

☆福沢さん

介護保険が来年４月から実施されるが、次の３点について質問したい。①実施されると現在よりもサービスが良くなるのか、どうなのか。②新川介護保険組合で対応とのことだが、常勤のホームヘルパーの過不足はどうか。非常勤の人の方策は。③認定についてだが、ある人に言わせると、医者にサービスしないと認定してもらえないと聞くが、どうなのか。

★柳沢健康福祉課主幹

この１０月から認定申請を受付している。国は制度の見直しについて意見が出ているが、町は来年４月の制度開始に向けて、組合で準備を進めている。住民への周知が大切であり、新川介護保険組合のパンフレットを８月に、県と共同で作成した漫画で解説のパンフレットを９月に全戸配布したり、町の広報でも５月から介護保険コーナーを設け、ＰＲに努めている。また、各地区への説明会をこの４月から３６回実施している。

ホームヘルパーのサービスについては、現在町には２９名のヘルパーがいる。来年４月からは要介護、要支援以上の人にケアプラン、ケアマネージの依頼をお願いすることになる。週何回とか、介護度に応じて決められる。ヘルパーは町のほか、農協、民間が入り、どこのサービスがいいかという競争になる。押しつけではなく、自分で決めることが出来る。町のヘルパーも努力しており、サービスが悪くなることがないと信じている。要介護認定から外れる人も予想されるが、町でやっている事業で引き続き行う考えで、福祉の後退はないものと思っている。

認定については、１次判定はコンピュータ、２次判定は審査会で、医者もそのメンバーに入っており、意見書などで判定が変わることはない。

（４）人口問題について

☆舟根勉さん

人口問題が当面する町政の最大の課題であると思う。来年は国調の年だが、富山県の人口も減少することが予想される。少子高齢化は町だけの問題ではないが、第２・３子に手当の支給という目先のやり方でなく、若い人が夢と希望を持たれるような、町の方向付け、総合計画が必要ではないか。就業の場の確保、新産業の誘致、道路の質的向上、幹線道路やサイクリングロード、ジョギングロードなど時代にマッチした道路の整備、商業の問題などいろいろ含めて、明るいまちづくり、町の発展につなげてほしい。

☆若島さん

舟根さんの意見に賛同である。危機は始まっている。入善町が一番色褪せて見える。若い人たちは、残っていくのか、戻ってくるのか非常に不安である。そういう人たちの意見を取り寄せ、町の計画に反映させてほしい。

★柳沢健康福祉課主幹

少子化対策の一環として、町では、現在3子以降に生まれた人に誕生祝い金を払っている。このようなお金を出すだけで子供を産む夫婦が増えるとは思っていない。今後の少子化対策として、子育て、魅力ある職場、安心して働くことの出来る環境づくりが必要である。また、多様な保育サービスの充実、放課後に集える場の確保、相談支援、魅力ある遊び場の提供が大切である。

★木本助役

人口問題は、県、町、全国の問題で、答えが分からない。町の人口は、10校下で増えているのは柵山地区のみである。柵山保育所が狭くなってきている。柵山地区には住宅団地が増えてきており、比較的若い人が多いので、子供の数が増えている。多分団地造成だと思うが、増えている原因を探してみたい。若い人が夢と希望が持てるよう、ハードのみではなく、他に負けない地域資源を生かし、精神的に自分に誇りを持ち、もっとお互いに自信を持ちたい。

その意味においても、若い人の意見を聞くことが大切だが、なかなか来ていただけない。総合計画でも委員に入っていただくよう働きかけたが、来ていただけない。雇用の場の確保が一番の方法だが、大きな工場誘致は望めない。農業を含めた地場産業の育成などの入善町行政施策が必要と考えている。

Ⅱ部（地域課題）

（1）新幹線整備に伴う沿線住民の諸問題について

☆福沢体協長

①地区体協が管理している河川敷運動場は着工ルートにかかるが、その代替地を含めた河川敷開発のビジョンについて聞きたい。②新幹線がかかるのは新屋、小摺戸地区だけ、駅が出来るわけでもないし迷惑なだけである。側道を県道に格上げしてほしい。アサヒ飲料以西で止まってしまい西へは進めない。また、町道、県道の交差はどうするのか。③騒音公害への対応は④フル規格になると第3セクターになる。町はどう対応するのか。町の負担はどうなるのか。

☆関連、若島さん

黒部川橋脚、田んぼの工事も発注され、民家の近くで工事が始まった。交通事故や、住民とのトラブルも考えられる。町は公団への指導監督をどのようにするのか。

☆関連、福沢万治さん

町は、JR存続について要望していたが、平成4年4月に、町民会議で第3セクター化について苦渋の容認をした。第3セクター化された場合、町民が不便である。今から、その対応、運動をしてほしい。

★米澤町長

第3セクター化については、平成4年4月に当時の町長が県知事にやむを得ず容認した。このときは、スーパー特急で止むなしとした。今は、フル規格ということであり、もう一度土俵に上がり仕切直すべきである。近いうちに町村会でも話を進めていきたい。

側道については、8メートルと言われたが、知事には12メートルと要請した。出来るだけ要望に合うように県、公団に申し入れたい。

★松島建設課長

工事が始まり、県内では初めてなのでいろいろ問題点が出てきても、地元としてどうすればいいのか、ということも問題になる。グラウンドについては、下に下がるような計画になる。体協では占用許可をもらっていないので、町で許可を受け、公団にやってもらう。

右岸の4カ所で工事をやっている。その状況を見ながら整備計画を立てていきたい。総合計画にも生かしていきたい。墓ノ木自然公園や青野自然公園を含めて検討したい。

側道は新幹線対策室と連絡を取りながら要望している。地元の協議会も解散することなく続けてほしい。交差点の問題は、事故等がないよう処理していきたい。事故対策は、万全を期しているはずだが、地元との連絡を密にしてほしい旨、申し入れしている。

その他、防音、振動、日照、電波障害、水質汚染、地盤沈下などいろいろな環境問題があるが、これらへの対応については、行政だけでなく地元の協議会の協力をお願いしたい。

5. まとめ（木本助役）

6. 閉会 21：30

新屋地区まちづくり懇談会

日時：平成11年11月15日（月）

午後7時30分～新屋地区公民館

出席者：地区住民43名、町当局16名

1. あいさつ（長谷区長会長）
2. 町政についての現況説明（米澤町長）
3. 総合計画についての概要説明（大木企画広報課長）

4. 座談会（座長・盛田親義氏）

タイムスケジュールについての説明。進め方について説明。

第1部（まちづくり）

（1）農業問題について

☆腰本さん（趣旨説明）自分の集落を例に説明

当墓ノ木地区では、勤めながらの兼業農家がほとんどで、専従者がいないという中で、平成5年度に国の助成を受けて農機具を中心とした営農組合を設立し、翌年（平成6年度）には墓ノ木営農組合を設立した。

主な作業内容は、トラクター、育苗、コンバイン、刈り取りに付随した乾燥調整作業について個人でもっている人以外は、ライスセンターを利用している。水の管理、防除、草刈りなどは個人での責任で行い、全面的な受託はしていない。

全面委託をしないのは何故かという点、全部門では赤字になるからである。

しかし最近になって全部やってほしいとの申し出が増加しており、このままでは、5年後、10年後には農業を続けることができない家がでてくる。

当地区の問題としてだけではなく、町全体の大きな問題なので、なかなか結論がでないだろうが町の考えを聞きたい。

★米澤町長

町はまず後継者問題ということは認識している。

どれが一番いい方法なのか皆さんと協議して良い答えをみつけていきたいと考えている。

後継者対策としては、組合組織あるいは会社組織にするなどいろんな方法がある。自然を後世まで残すにはどのようにすればよいか、皆さんと共に考えていき、総合計画にも入れていきたい。

また、町出身者のための「ふるさと」づくりとしても、自然を残し、農家を残していく方法を考えている。その方法として現在考えているのは、総合計画に「地域割り」を設定してはどうかということである。例えば農業地帯、工業地帯などの設

定をしながらまちづくりを進めていきたい。また、この席上でも、他にアイディア等があればぜひ、聞かせていただきたい。

★大角農業水産課長

まず、第1に「担い手の確保」についてであるが、農業基本法が38年ぶりに改正され、米を中心とした土地利用型の農村活性化対策として、生産調整、米食中心の施策の展開、自給率の悪い作物（麦、大豆など）の生産性拡大をめざし、自給率の向上を図ることが目標とされている。

また、町ではこれまで基本計画を策定し、計画的に施策を展開してきたが、地区計画というものがなかったので、今後は地区ごとに振興計画を作っていきたいと考えている。その中で、農業担い手育成の方策をどのように表すかが課題である。基本的には、組織化する方向で対応したいが、高齢化は避けて通れない問題である。

具体的には、

1. 個人農家の法人化など専門的な農家を促進するという従来型の方策
2. 集落1農場として経営し、地域複合化を図り、生産から加工までを視野に入れた農業経営基盤の強化
3. 墓ノ木、あらせの等の2地区のほか他の4団体などにみられる農作業受託の組織化
5. 農地保有合理化、農業公社の設立による作業受託、土地の保有、担い手確保などを考えている。今後は、意向調査を実施して10年後を視野に入れた対策を検討していく予定である。

☆荒田さん

全面委託が増えており、農協とタイアップして何かできないか？

★大角農業水産課長

JAと、ということであれば、第3セクター方式が考えられる。第3セクター方式については、今のところ農地の流動化についてのみ検討されているが、将来的には経営の全てをみるということも考えられる。また、若い世代の後継者からは、町で一つの農場を作ったかどうか、という提案もある。

☆住民

全面受託の受け入れ先がないままでは、1／3の農家で農業ができなくなる。町の総合計画でとりいれるべきことではないのか。

☆座長

自分の地域でも後継者がいるのは16軒中2軒のみである。受け入れ先もなく、このままでは不安である。行政が継ぎ足ししてほしい。

☆住民

半公務員のような形が必要である。

★助役

赤字になるからできないというのではなく、もうかる方法を考えられないか。作る側からということに話が終始しがちである。皆さんご存じのように、食管制度が改正された。

赤字を解消するためには、売ること、買ってもらえるような農業を促進すべきでは。そういう視点から総合計画で検討したい（新潟県魚沼産など）。

特に、黒部川のあらせの米はうまい。これを売る方法、などの検討が必要であり、なにか方法はないか？

☆荒田さん

全部売れても作る人間がいない。腰が痛い、足が痛いという理由で作れない。だから、何とかして欲しい。

★助役

専業で一生懸命つくったものも兼業で作ったものも一緒というのはどうか。農家を守っていくという意味で、町も支援していかなければならないが、農業も産業のひとつなので、売れる米を作ること考えてはどうか。

☆中林さん

家に後継者がいるが農業をやらないということが問題である。米価が下がるなど年々ダウンする仕事を誰がやってくれるか？やってくれとは、とても言えない。若い労働力を確保するには市場原理だけではだめ。行政と農協とタイアップすべきであり、規模拡大などで行政は助成していかななくてはならないのでは。

★助役

従来のような補助政策では、限界がある。一方で、サラリーマンをやめて農業をする人が増えている。規模を拡大し、儲かる農業を考えて行くべきである。

また、環境保全という面で、行政が支援することもできる。

☆荒田さん

金をつかわなくてもできる方法があればよいが、ある程度のお金がかかってもやるべきことはある。

★町長

売る方法を考えることもある意味では必要であり、付加価値のある農業を考えるべき。新屋の米はおいしい。それを推めて行くことも重要である。

☆住民

現実をみてほしい。まず作る人間がいない。

☆荒田さん

平均耕作面積が1町2反、うち転作もある。たとえ単価が少々上がろうと、たかがしれている。50万やそこら儲かったぐらいでは誰もやらない。

☆住民

耕作放棄には行政は何を考えているか。ケナフ、栗の木を植えるなどのビジョンがないのか。

★町長

米以外の、特産物を考えてみるというのも必要だと考える。

☆住民

現実の問題としてこの美田の中で、草がぼうぼうになったらどうなるのか。このままでは、今後かなりの田が見捨てられるということが考えられる。

☆座長

儲かる農業を目指すことも大切であるが、一方で、儲かっても後継者が育たないのも事実である。この問題については、総合計画の中で十分盛り込んでいってほしい。また、環境を維持するのはある程度金がかかる。行政もその辺りのことを理解して欲しい。

☆住民

米が安くなったというが、私は米を買っているが最近の米はうまい。

☆住民

他に勤めているので暇がない。手が足りないので雑な農業が行われているのも事実。行政が助成してうまい米を作れる体制づくりを目指して欲しい。

☆橋本さん

魚沼産の米は、実際に取れている量よりも2、3倍出ていると聞く。ネーミングが大事なのではないか。

★町長

現実に入善の「つぶぞろい」を買うところ、売っているところが入善町にない。どこにもないというのは情けない。せっかく高く売れるのにもったいない。

☆座長

おいしい米を作ることを考えていかななくてはならないし、行政と、農協が協力して支援をしていくことも大切である。

(2) 下水道問題について

☆長谷区長会長（趣旨説明）

下水道の経過の説明をお願いしたい。新屋地区はぜひ取り組みたいということで、同意書のとりまとめを各地区にお願いし、今年の8月末には地区の99あまりの同意書を得て役場に提出した。聞くところによると12月には内示があるときく。なんとしてでも採択をお願いしたい。

★本多下水道課長

同意書の取りまとめが100パーセントに近い同意率であり、地区あげてのご協力、ありがたく思っている。これまでの経過を説明すると、現在、作成した基本計画を県へ提出し、審査をうけているところであるが、新規採択はなかなか難しくなった。

希望は県内でもいくつかあり、そのうちいくつかが翌年度回しになると聞いている。今後とも、積極的に県に働きかけ、平成12年度新規採択をいただきたいと思っている。例年12月に内示だが対応が遅れている（経済対策に追われている）。2月頃か？県の感触ではまあまあいいと思われるが、働きかけをしていきたい。

また、今後の課題や、お願いとしましては、

1. 用地取得
 2. 4月以降、浄化センター位置の確認
 3. 合口用水をどこでオーバーしていけばいいのか
 4. 公共ますの位置の確認
- などがあり、今後も協力してほしい。

☆住民

すぐ取りかかれるという話であったのでは。話が違うのではないか？

★本多下水道課長

国の事務が遅れており、返事が遅くなる。間違いないと思うが、町が判断することではないので、その辺を理解してほしい。

★林財政課長

認可が出れば12年から16年で完了したい。中期に浄化センターを作り、環境の整ったところから開始したい。

★町長

早期完成出来るよう一生懸命取り組みたい。

☆住民

浄化センターの周辺整備など約束事があったはず。どうなるのか。

★本多下水道課長

採択を受けてから順次実施していく。

☆座長

町には、今後とも国・県への働きかけをお願いし、浄化センターができる地区及び周辺への配慮を考えてもらいたい。

第2部（地域課題）

- （1）芸術文化、自然及び環境問題について
- （下山芸術の森及び墓の木自然公園の整備など）

下山芸術の森美術館について

☆座長

現在の美術館は、あれだけだと美術に関心ある人以外は行かない。周辺は専門家に言わせると「はば」の自然、樹木を残している。それを生かした方法を（鑑賞、森林浴、遊具の設置など）を考えられないか。いまのままでは宝のもちぐされになる。

★上原生涯学習・スポーツ課長

＜美術館整備の経過説明＞

美術館に来るだけというのはご指摘のとおり。若干さびしい。あそこだけでも十分楽しめるのであるが、ただ美術館に来るだけというのは、なかなかできない。美術館周辺には、展望塔、アトリエ、宿泊所が整備されているが、他に下山八幡社などと連携した整備が必要というのは認識している。

下山地区からの要望もある。下山八幡社周辺の整備、駐車場、トイレ、休憩所、用水への架橋、坪野遺跡周辺整備、ウラジロガシなど扇状地の特性を持った貴重な林の活用、散策道、エコミュージアム、現時点では整備の特別な予算はないが、看板、パンフの作成などを行っていきたい。将来的には、墓ノ木自然公園等を含めライン化した観光資源として活用できるような整備計画をたてたいと考えている。駐車場整備、PRがまず急がれる問題である。

☆住民

天気がいい日に下山に行ったとき誰もいなかった。いつもそうらしい。評判の割に人が来ていないのではないかな。もっと人が来るようなものが必要なのでは。美術

展示もわかりにくいものばかりなので、大衆にわかるものが欲しい。また、ライトアップは必要か。

☆住民

ライトアップはあったほうが良い。

☆座長

いまのままだと美術に特別の関心がある人以外は行かない。子供と一緒に行って遊べる場所、人が集う場所づくりをし、同時に美術館にも人が入るようにするとよい。

☆住民

レストランに、食べるものがない。ラーメンなど大衆的なものがあってもいいのでは？

また、高いものばかりである。

☆座長・・・ラーメン屋などは、人が集まると自然にできるのでは。

★上原生涯学習・スポーツ課長

企画展示の内容については、特殊な展示場であり、湿気が高いため絵などを長期的に飾れないということで、工夫している。前衛的な作品が多いことも事実であるが、各方面からいろんな作家からの要望が高く、非常に高名な、日本を代表する作家の展示を行っているのも事実である。

これからは、学芸員とも相談しながら、親しまれる作品展も検討したい。また、美術館だけでなく「はば」のラインをつなげた整備を行っていきたい。

☆住民

子供のための施設、科学も大事ではないか？落差発電の実験など、そういうものをつくれませんか？町だけでなく朝日町とも共同でやればどうか。

☆荒田さん

町が所有する高価な美術品を倉庫に眠らせておくのではなく、あと1億かけて常時展示できる施設を建てればどうか。

★上原生涯学習・スポーツ課長

現在町の所蔵品は504点あり、企画展示をという提言をいただいている。しかし、現在のところ、設備の整った展示できる場所がない。今後、新たな美術館の建設も検討していくが、展示により作品に傷がついたりすることがあり、展示にふみきれない。

☆座長

週休2日制にもなる。子供が集まれる施設整備（子供科学館など）をぜひ検討してほしい。

墓の木自然公園について

☆座長

第1、第2キャンプ場は大木を生かしてもう少し金をかけてヨーロッパ的な遊び場に、第3キャンプ場は里山的なもの（あまり手を加えず、かつてのものを再現する）、自然と親しむ整備などエリアで分けた整備ができないか。

池などがあれば、白鳥などの飛来も期待できるし、桜の種類が多いので、もっと多くの人が活用してくれるような施設整備ができないか。委員会などを設置して、多目的に利用できるような整備を検討していけばどうか。

★松島建設課長

公園の面積は22haあり建設省から占用許可を得ている。そのうち3haはキャンプ場になっている。第3キャンプ場は以前整備した経緯があるが、その後使われなくなった。普通キャンプ場は有料であるが、町のキャンプ場は無料ということで、雑誌などに紹介され、東京や大阪などの都会などからの多くの利用者があるので、駐車場の拡大や第3キャンプ場を静かなキャンプ場として整備したい考えがある。

しかし、第2キャンプ場については、RV車の乗り入れなどがあり、エンジン音などのマナーの問題がある。今年はある程度乗り入れを制限したが、今後、オートキャンプ場的なものも考えて行かなくてはならない。

その他の課題としては、飲料水の確保、O-157問題、ツツガムシ病、毒草の除去など、自然の中に安心してキャンプができる整備を考えていきたい。

また、緊急放水する川の流れが悪く、鮎、岩魚が住めない状態である。北電に放水するよう要望している。

桜については、種類の看板等をつけ表示したい。また、水洗のトイレの整備も必要と考える。

☆腰本区長

水の放流については、第1発電所で所定の水量を流すというのは約束のはずだった。しかし、中ノ口公園の下水が流れているので不衛生であり、約束通り所定の水量を流して欲しい。

☆長谷区長

昭和60年頃に区長会と北電との話し合いの中で、書類では交わしていないが0.5の水量を流すのは約束だったはずであるが、今は流れていない。

☆住民

園内に外灯がなく、防犯上問題ではないのか。

★松島建設課長

河川敷のためいろいろと規制されているが、電線の引き込みを建設省と協議しながら、設置したい。また1カ所太陽熱を利用したものをつけたい。しかし、あんまり園内を明るくすると自然に良くないので、自然破壊にならないよう配慮しながらやっていきたい。

☆座長

水の問題は北電との協議して、また園内は多目的な利用が可能な整備をお願いしたい。

その他

☆荒田

新幹線の問題であるが、新屋地区は大方な人が調印した。公団と調印する前に、公団からの説明では、機能回復という言葉が多く使われていた。道路の機能回復ということで6mの道路に新幹線の橋脚がかかり、その道路が迂回してつけられるが、その道路が3mになった。トラックも回れない危ない道路をもらっても仕方がない。公団に言っても、言うことを聞いてもらえない。すでにはんこを押した後なので、強気になって言うことをきいてくれない。行政に頼らざるをえないので、強く公団に言って欲しい。

★松島建設課長

話はきいている。出来るだけ地元の意見を通していきたい。

☆住民

入善町として光ファイバーなどの情報網についてどのように考えているのか。下水道整備に伴う光ケーブルの敷設などを検討すればどうか。

★大木企画広報課長

入善町の情報化については現在計画を策定中であり、その中でCATV等についても検討し、光ファイバーを下水道に埋設するか、地上かどうかのコスト等を検討する。また、庁内LANということで自治体ネットワーク整備に取り組み、地域においては、地域インフラ整備を進めていくよう総合計画で明確にしていきたい。

☆住民

小布施に行ったら、高速から降りないで行けるようシャトルバスが迎えに来ていた。町もで出来ないものか。

★飛田商工観光課長

ことあるごとに入善町のPRをしているが、違った意味で例えば、新宿、原宿、埼玉県蕨市などで交流をやるとか、農村と都市間の交流をやったりしてPRをしていきたい。

6. まとめ（木本助役）

7. 地元議員あいさつ（長谷議員）

8. 閉会 21：50

梶山地区まちづくり懇談会

平成11年11月12日（金）

19：30～梶山地区公民館

・主席者 地区住民81名 町当局18名

1. 開会の挨拶（中川久義区長会長） 開会19：34
2. 町政について現況説明（米澤町長）
3. 総合計画策定について概要説明（大木企画広報課長）
4. 座談会（座長・青木大政区長）

第1部（まちづくり）

（1）少子高齢化について

梶山地区の人口は増えているが、町全体の人口はだんだん減っている。特に最近では少子高齢化が進み、いろいろな負担が若い人にかかってくる。若いうちはよそで働き、年をとって地元に戻ってくる。その頃は、介護を受ける時期だ。入善町のこの問題への施策と今後の展望を聞きたい。

★松島建設課長

少子高齢化対策の一つとして、住環境の整備は大切である。住環境の整備により、定住化を誘導し、人口流出の抑制を図るため、平成7年4月1日に、入善町民間宅地開発事業補助金交付要綱を作った。民間活力を活用し、安く良質な住宅用地を供給するとともに、購入価格を軽減し、宅地購入者の需要促進を図っている。

補助の内容は、住宅用地開発面積が5000㎡以上の面積で、補助対象者は、民間宅地造成事業者と宅地購入者となっており、補助金額は、民間宅地造成事業者が補助対象経費の2／1，限度額500万円、宅地購入者に一区画につき20万円を出している。

今年度もすでに、コスモ21の西側に27区画造成されている。整備が終われば、宅地購入者に20万円、事業者にも補助金を出すことになっている。道路幅が6メートル以上あるとか、舗装されているとか、消雪装置も整備されている、ということが条件である。

今ひとつは、町営住宅の整備である。東五十里の東町町営住宅は老朽化し、来年から建て替える計画である。若者はもちろん、高齢単身世帯、高齢夫婦世帯も入居できるようなバリアフリーにも対応できる住宅としたい。

★上田健康福祉課長

少子化問題は、なかなか良い解決策が見い出せない。福祉の面でのサービスを紹介したい。

子育て支援としてわずかだが、第3子に3万円、4子に5万円を給付している。しかし、この額をたとえ10倍にしても、第3子を持とう、ということにつながらないと思う。

産んだ後の子育てにお金がかかるのも事実であり、制度として考えていく必要がある。第3子で3歳未満児の保育料を半額に減免している。3歳以上児についても半額にすると、だいたい1500万円の費用が必要である。

保育所の入所は、通常3歳になってからだが、最近は0歳児が入所、1・2歳児が増えている。2歳児については、全体の7割程度が入所。保育士の増員などで対応している。 梶山地区は唯一増えており、9年前まで定員70名に対して、入所児が62、3名であったものが、今年は一気に86名の申し込みがあり、定員90人ぎりぎりである。来年度の入所申し込みが11月13日だが、90人を超え、100名の申し込みが予想される。したがって、一部の子供は入善保育所や梶山新、田ノ又 地区の子供は横山保育所などへ行ってもらえないか、保護者の方をお願いしている。

梶山保育所は昭和48年に建設され、26年が経過、相当に老朽化しており、ごく近い将来、改築や増築を考えなければならない。新総合計画に盛り込みたい。

☆杉田さん

今年は、東部保育所あるいは横山保育所への調整もやむを得ないが、来年4月には3歳未満児も増え、現在の施設ではもたないのではないかと。保護者は地元の保育所を希望しており、早急に増・改築してほしい。

また、保育所に畑があり、サツマイモを植えたが、農村公園の木の根っこがじゃまして、サツマイモが成らなかった。対策をお願いしたい。

★上田健康福祉課長

敷地を広くすることができない。増築する場合は、学校敷地を利用すれば何とかなるが、プールが障害となる。これを何とかすれば、借地の問題もあるが、学校の庭園を保育所用地として利用でき、今後の検討課題である。改築はすぐできないが、来年度は増築の必要があり、学校跡地の利用も合わせて検討したい。

☆婦人会

保育所の送り迎えの際、駐車場が全くない。畑もお願いするが、教室も広

げてほしい。

★上田健康福祉課長

柵山保育所ははみ出し、横山保育所は比較的に余裕がある。柵山新地区4名が東部1名、幼稚園1名など5・6名調整の必要がある。保護者の皆さんと協議させてほしい。

(2) 学校週休2日制に伴う子供の遊び場、学ぶ場の確保について

2002年から学校が完全週休2日制で、土・日曜日が休みとなる。その対策は？

☆上田PTA会長

正確には学校完全週5日制。土・日の2日間で、学校外の勉強をなささい、という主旨である。

町に新しい児童館ができたが、入善周辺はいいが、遠く離れたところの子供は利用しにくい。2002年以降、5日制になったら学校外での学習活動に対する対応を聞かせてほしい。

★米島教育長

遊び場、学ぶ場の確保については、各家庭、地域の方々の知恵と力を借りたい。平成14年から学校5日制となる。根拠の一つは、急激な社会の変化に対応するには、知識を詰め込み、ものを知っているということだけでは生きていけないということである。これからは、ゆとりの中で、生きる力を養うことが大切であり、知識よりも体験（一人と人の交わり、自然との交わり）をとおして、豊かな心を育て、自ら課題を発見し解決する力を育てることが大切となる。従って土、日曜には、子供達が地域や家庭に帰り、自然との交わりの中でいろいろなことを学ぶなど、2日間は家庭や地域にお願いしよう—ということである。

地域と家庭と学校の連携のもとに、親御さんには子供とどのように交わっていくか考えていただきたい。特に、生きる力の基礎である、生活習慣、道徳、決められたことを守る態度などについて、まず、家庭の方でどう教えたらよいか考えてほしい。さらに、地域で地域の子供を育てるという考えのもとに、地域の教育力をお借りしたい。そして、子供たちの「学びの場」「遊びの場」をその中で考えていただきたい。

☆島田さん

2002年に向けて、地域が学校の中のことについて、親御さんなら知っ

ているが、地域住民が関心を持って、学校のことを知ることが大切である。学校の活動を知っている、地域に開かれた学校がいい。

宇奈月町で、地域住民に開放する試みがあったとか。お互い知り合い、先生方や子供との交流の足がかりもできてくる。入善町でも事情があろうが、学校を地域に広く開くということはいいいことだと考える。

☆大田さん

遊ぶ場、学ぶ場も大切であるが、通学に関してお願いしたい。

梶山新、桃李小学校プールの下から横山地区の子が上がって、横山用水橋が狭い。ガードレールが壊れている。町へ行って、橋を西側に拡幅してほしい、と要望した。

町では、ガードレールは簡単だが、拡幅にはお金がかかる、地権者もおられない、との返事であった。橋と歩道で4メートルぐらい付ける対応してほしい、と建設課に言った。長く待てない。

★松島建設課長

課内で協議している。溢水のことも合わせて考えているが、危険度を考え、西側の拡幅についてどのような方法でやるかを合わせて今年度で対応したい。

☆高見さん

テレビを見ていたら、アメリカではボランティア精神が旺盛である。2日間の過ごし方は、ボランティア的なことに費やしたらどうだろうか。中学校の14歳の挑戦は、子供たちが自信を深めるいい試みである。

(3) 新幹線整備に伴う在来線問題について

新幹線の開通により、新黒部駅までなおさら時間がかかる。第3セクター化されるのに伴い、東入善駅を建設してほしい。

★木本助役

「新幹線はフル規格で整備する」というのが、現在の富山県全体の世論である中で、町は平成4年4月に、並行在来線について、24,480名にのぼる存続署名があったにもかかわらず、第3セクター化を飲まざるを得ない苦渋の選択を強いられたところである。

しかし、そのとき5項目の条件を付しており、その4つ目に仮称・東入善駅の設置を要望していることは事実である。第3セクター化に伴い、東入善駅の設置について強力に申し込むことは、在来線の存続と合わせて要求を続

けていくべきである。

☆住民

新幹線ができて、町は通過するだけである。在来線が今までどおりなら問題ないが、第3セクター化されるのなら、東入善駅の設置を望む。

☆島さん

新幹線はまず来るであろう。入善町は人口も減っているが、乗りやすい環境整備が必要である。

近く入善駅も無人化されるし、便利となるようにしなければならない。

第2部（地域課題）

（1）柵山地区交流センターの建設について

学校跡地問題も含めて、柵山文化伝承館について聞きたい。3年続けてこの話をする。☆杉田さん

去年のこの会合でも、ふるさと伝承館の設置について要望したが、町はよく分かった、ということであった。しかし、12月議会一般質問でこの問題について質したところ、

返事は全然違っていた。その後も町から返事はなく、建設委員会としても、平成13年からの町の総合計画にのせてほしいということで、この9月末に会合を開いたところである。今までの経過を再確認し、12月末まで返事を聞かせてほしい。

★米澤町長

9月に町と地元と話し合った。伝承館については、町にも文化的な芸能もあるし、ただ、場所は町全体で考えた方が良くと思う。作る以上は、皆さんに利用してもらえるように場所を検討させてほしい。

どのような建物、例えば、保育所、集会場であったり、お年寄りの方が集まったり、また週5日制で子供たちが利用できるような、そういったものをこの近辺で考えていきたい。

いつもお話ししているが、現在の校舎をどうするのか、このままでいいのか、移築するのかなど、地元で考えていただきたい。また、伝承館については、柵山地区より町全体で考えていきたい。

☆島さん

近くの市町をみると、滑川には看護関係、魚津には洗足短大、黒部には吉

田科学館、上越には看護学校などがあるが、入善は遅れている。入善町に何か持ってこられないか。入善町にも、科学とかやるような関係機関をつくれないか。最近地震があるが、例えば地震をキャッチするような機関、金沢の私立大学の図書館は全国有数の図書館であり、そのような機関を誘致することも、櫛山小跡地の利用方法の一つであると思う。総合計画の中にぜひ盛り込んでほしい。

★林財政課長

12月末まで、ある程度町の案を提案したい。島先生のお話も参考にしながら、ぜひお願いしたい。

★米澤町長

全部サラ地として考えることも一つである。集会場としての利用、例えば、お年寄りや保育所などを合わせた施設をこの近くに建設することも考えられ、構想を練りたい。

☆住民

建設推進委員会を発足し、12月末までに案を考えていただくとして、残すとしても、どこかへ移築する案もある。

☆杉田さん

地区の皆さんからも期待されている問題である。建設課建築住宅係で案を作っている最中というが、別に図面を出せとは言っていない。建設は大いに結構だが、いまになって、校舎を利用する、利用しないの検討は、どこでどうなったのか、この3年間無駄に過ごしたようなものである。希少価値の建物に違いないが、壊すとか残すとか、どのように検討されたのか。

★木本助役

対応が遅いとの意見だが、言われるとおり、テンポが遅いのは申し訳なく思っている。木造校舎の処遇については、地元の意見を尊重することが大前提である。

☆前田さん

昔、各自の家の木を持ち寄って建てたということだから、利活用、存続について、県・国あたりに聞いたことがあるのか。写真、グラビアに載ったくらいである。

★米澤町長

前回9月の会合では、「壊してほしい」という結論だったと思っている。

☆杉田さん

4月に区長が交代。皆さんの意見は、壊した方がいい、ということで、地元として町へ要望した。

★木本助役

価値観の違いではないか。壊す壊さないは、町を含めて地元で判断していただいたはずである。サラ地とする、というふうに理解している。

☆住民

町は県のデザイン協会へ、柵山小跡地の利活用について打診しているのではないか。

☆上田さん

柵山小跡地をどう利用したらよいかについて、よく話し合いがなされていない。十分検討されていないと思うので「柵山小学校を考える会」を発足し、この22日に会合を開く。デザイン協会建築環境部会などの協力を得て、瑞龍寺の修復を手がけられた国際職藝学園教授の上野幸夫さんの話を聞く。町は、旧柵山小学校を壊さないと公民館的な施設はつくられないと考えているのか。

☆区長

推進委員会を中心として、地元としての意見をまとめていきたい。

★上原生[※]課長

地区交流センターについては、準備委員会では、学校を取り壊し、役場からその案を出してほしい、ということである。伝承館のについては、この地区ではできないと思う。

サラ地としての利用を今後考えていきたい。公民館、託老所、児童館などを含め、公民館的な建物になるであろう。

柵山小学校は、地区にとっては思い入れの多い建物で、文化的にも価値が高いと思われる。存続も視点に入れていきたい。

☆区長会長

地元としては、取り壊しの線でまとまっている。デザイン協会の話で、学校を残すということになれば、移築ということになる。

☆杉田さん

梶山小学校校舎の価値の有無などについては、町はそうではないとの返事で、取り壊すということを、地元で納得したところである。取り壊しの線で、12月末まで返事をお願いしたい。

(3) ゴミ収集について

休日に資源物収集場所の設置をお願いしたい。

★飛田住民環境課長

収集日が休日に当たるのは、年間14～15日程度ある。再生広場などに設置できないか、実現に向け努力したい。なお、1/10、3/20は特別収集日としたい。日取りは、後日お知らせしたい。

☆住民

10月11日は振替休日にあたり、収集されなかった。別の日に収集する、とのことであったが、収集されなかった。再生広場を東の方に設置してほしい。また、ペットボトルはショッピングセンターなどで回収していない。朝日町アスカで回収が始まっている。スーパーなどで回収するよう町から働きかけてほしい。

★飛田住民環境課長

10月は申し訳なかった。今後気を付けたい。ペットボトルの件については、回収に向けて努力したい。

5. まとめ（木本助役）

6. 地元議員あいさつ（谷口議員）

閉会 10：05

横山地区まちづくり懇談会

平成11年11月17日(水)
19:30～横山地区公民館

・ 主席者 地区住民45名 町当局13名

1. 開会の挨拶(黒部恒一区長会長)
2. 町政について現況説明(米澤町長)
3. 総合計画策定について概要説明(大木企画広報課長)

4. 座談会(座長・池原賢晴区長)

第1部(まちづくり)

(1) 少子高齢化について

☆黒部区長会長

少子高齢化に伴い、年を取るにしたがって、お年寄り福祉の充実を念願している。横山地区にそのような施設がほしい。また、小さい子供たちも育児環境も充実してほしい。

☆住民

現在アンケートが回っているが、アンケートの結果に基づき、いいところはすぐ実行してほしい。

☆住民

少子高齢化で3つの問題が出ている。一つは、在宅福祉サービスの問題である。介護保険について、広報で連載されているが、11月号では、在宅福祉サービスについて記載されていたが、まだできていない施設があるのではないか。新川広域介護ではどのように考えているのか。痴呆性老人が増えてきている。新川地区には、グループホームが出来ていない。町にもない。いつ頃出来るのか。

次に保育の問題。児童の入所率は、徐々に上がってきており、3歳未満児については、特にその率が高い。3歳未満児の入所は困難と聞いているおり、全員が入所できるよう配所してほしい。また、保育室や設備面で充実を図ってほしい。

★上田健康福祉課長

福祉施設を、横山地区の近くで出来ないか、ということだが、現在の施設

で関心のあるのは特養ホームで、介護保険のからみもあり、1市3町の中での整備を考えている。現在全体で310床あり、舟見寿楽苑100、黒部80、朝日80、宇奈月50、現在これに、朝日が50、黒部が50増築しており、来年3月には合わせて410床ということになる。

しかし、これでも足りない入善町で入所申請されて、判定の出た入所待ちの人が61名いる。このため、第2の特養ホームということで、国や県に平成12年度着工、13年の秋オープンを考えている。そのための準備事務室を開設させ、法人の設立など準備を進めている。建設場所は、5・6年前から当地区で要望されているが、1市3町全体という考え方で、ふれあい交流プラザに隣接して、特養ホームをつくりたい。寿楽苑よりも近くなる。

次に、在宅福祉サービスが少ないのではのではないか、との指摘をいただいたが、その3本柱である、ホームヘルプ、ショートステイはあるが、グループホームはない。宇奈月町にはおらはうすに隣接して建設中で、8名の入所、来年4月完成予定であるがすでに満杯であり、さらに8床増築の予定がある、と聞いている。

これは、宇奈月町が主体的に建設しており、入善町で希望があれば入れてほしい、と申し入れている。訪問介護・入浴をやっているのは宇奈月町のみ。この問題については、今後、民間業者の参入などにより、訪問入浴サービスを受けることも可能である。

次に、保育所の問題である。少子化で子供数は減少している。昭和40年代では子供数が400人を超えていた。しかし、50年代徐々に減り、平成元年300人を切り、その後も減り続け、現在は220～230人である。当然のごとく入所数も減り、55年がピークで1400人で、その後どんどん減り、平成9年が779人と最低、その後、去年、来年と徐々に増えはきている。

ご指摘どおり、3歳未満児が増えてきている。0歳児の入所、特に2歳児で、全体の6割を超える子供たちが入所。今年4月の入所申し込みは844人、途中で870人、来年度の入所申し込みはさらに上回って887人である。

その内、3歳未満児は約200人、内才児は150人と、低年齢時の入所が増えてきている。正職員のみならず、臨時の職員もたくさんいる。施設の問題は一気に片付かないが、すぐ直せるよう努力したい。

★米澤町長

保育所の施設の充実については、故障、問題があればすぐ知らせてほしい。

軽微なものについては、すぐ修繕し、大きなものについてはそれなりに対応したい。

（２）児童・青少年の健全育成について

☆黒部区長会長

最近、新聞等で青少年の事件が多い。この辺でもあるかもしれない。地区として真剣に考え、郷土を愛する青少年の育成が大切である。しかし、立派な青少年もいる。横山地区は海岸を持つ。海水浴に来て、用を足したいので困っているとき、民家を借りて、若者が貸し便所を建てた。立派なグループもあり、誇りを持つべきである。

★米島教育長

児童生徒の育成については、どなたも「学校では教育はどうなっているのか」ということについて最も関心が高いと思われる。平成１４年から学校完全週５日制となり学校が大きく変わる。今後の社会はますます価値観が多様化し、知識偏重教育では子供たちは生きていけないと言われている。そこで今後は、ゆとりを持って生きる力を養うことが大切となる。自分で課題を見つけ、解決する力や物を知るだけでなく、人との交わり、体験が大切である。従ってこのようなことは学校だけではだめで、地域や家庭での教育が重要であり、生活習慣、規範意識、人、自然との関わりを家庭や地域の人たちに育ててもらうことが大切である。

現在学校では、国語、社会の教科のほか、生活科という科目を取り入れたり、環境問題とか自然、国際交流、情報の勉強も取り入れ、体験を通じ、生きる力を養い、力を付けるように一生懸命やっている。学校、地域、家庭の３者が一体となって子供を育成したい。親御さんのご協力をお願いしたい。

★上原生涯学習・スポーツ課長

近年、ボーイスカウトなどが衰退している。少子化や指導者不足により、活発な活動が出来ていない。また、青年団は壊滅状態で、地域の連帯感の薄れ、上原、舟見など２・３しかやっていない。

家庭にあっては、夫婦単位の核家族化が進み、子供には物ばかり与えて大事に育てる。児童の虐待、家庭教育の崩壊、犯罪の低年齢化、凶悪化が入善町でも。ＰＴＡや青少年育成町民会議が補導など地域活動を行っているが、なかなか解決策を見いだせないのが現状である。

学校でも、１４歳の挑戦、親御さんの職場を見たり、社会的な活動に参加しており、大きな成果を期待している。いつの時代でも、今時の若い者は、というのが、横山地区には、漁村センター、体育館、保育所などがあり、土日

曜日の開放 等で、子供の遊び場を設け、事業を進めるべきと思う。将来、パソコンや遊具、図書の整備も大切で、各地区の公民館の開放も必要と考える。

☆住民

サンビレッジの利用についてだが、土日を除き、利用が悪い。何かりハビリ器具でもあれば、老人も利用できるのでは。

★上田健康福祉課長

基本的には、リハビリの施設ではない。公共施設は原則だれでも利用できるのはいい。子供たちが、社会体育館でも漁村センターでも自由に出入り出来ることが大切である。高齢者のスポーツ、ウォークベースボール、ゲートボールなど高齢者のスポーツとして指導者の育成するなど、サンビレッジでもできるようメニューを考えていきたい。

★藤田副座長

児童委員として、現在どういうことが問題になっているのか聞きたい。

☆池原

平成6年の地域児童育成5か年計画では、児童館を小学校単位で設置する、ということであったが、実際には1か所しかない。横山保育所の遊具は古く、滑るとかさかさする。公園は春日しかないし、遊具はぼろぼろ。実際に必要などころに投入すべき。保育所の遊具を充実すべきである。

(3) ごみとリサイクル問題

☆婦人会

連合婦人会では環境保全問題に重点を置き、啓発活動を強化している。役場住民環境課から担当者を呼んでごみ問題について勉強をしている。リサイクルの活動として、雑誌、段ボール、新聞など持っていくところがない。再生広場でもあればいい。野中のあぐり館もあるが、近くにあればいい。

☆黒部区長会長

ごみの収集についてだが、収集日に出していない。ごみステーションを見て回ると、マナーが悪い。今年10月からポイ捨て条例が施行され、罰金もあるとのことで、徹底してほしい。

☆関連、住民

粗大ごみの処理をどうするのか。たとえばホイール付きのタイヤやバッテ

リーなど、処理方法を町で考えてほしい。

★飛田住民環境課長

上原の再生広場で８７トン回収している。このほか、１００カ所のごみステーションで２１８トン、ＰＴＡ、婦人会、その他の資源回収で合わせて５２トン回収している。

再生広場については全体計画を定め、設置を進めていきたい。

次に、ポイ捨て条例については、この１０月１日から実施しており、チラシなどを配布し啓蒙に努めている。婦人会や中学生などを対象に、職員が講師として出かけ、ＰＲに努めたい。道路や河川にごみやたばこ、ガムなどを捨てた場合、注意、指導、助言、勧告に従わなかったときは、氏名を公表し、１万円以下の罰金をいただくことになる。

バッテリー、ホイールについては、引き取り業者などと協議を進めたい。雑誌など紙類は少し遠いが、あぐり館へ、再生可能なものは上原へ持って行っていただきたい。

☆関連、住民

住民のごみの出し方が悪くなっている。ごみの出し方は１００点満点で何点か。リサイクル率などを、多市町村との比較をしっかりと住民に知らせるべきである。啓蒙の時期は過ぎたのではないか。指針を示して、住民を引っ張っていくことが大切ではないか。

☆住民

ホイールとバッテリーの処分のあり方だが、有償で引き取ってもらうしかないのでは。

★飛田住民環境課長

ごみ収集は何点か、ということだが、９０点以上の優秀さだと思う。バッテリーの問題については、いろいろ考えてみたい。

★上原課長（前環境課長）

バッテリーはたくさん集まれば業者が引き取る。一定の場所、１カ所に集まれば業者が持っていくはずである。タイヤは青木中北で再生しており、有償で引き取っている。

☆住民 町が、業者に持って行ってほしい。

★上原課長（前環境課長）

集めれば可能であるので、検討したい。

第Ⅱ部（地域課題）

（１）自然環境を生かした「住み良い入善町、住みたい横山地区づくり」について

- ・国道８号に通ずるアクセス道路の整備について
- ・海洋性レクリエーション基地、海浜公園の整備について

☆黒部区長会長

昨年、一昨年も話したが、８号線へ通ずる縦道の整備が大切である。湾岸道路、国道バイパスと合わせて建設整備してほしい。

横山は海岸線が一番長い。レクリエーション基地として、海を利用した施設を整備してほしい。

道路標識についてだが、横山地区は少なく、この地区の標識はぱっとしないのでは。

海岸ということで、子供からお年寄りまで海岸をきれいにし、住みたい横山地区にしたいと考えている。しかし、あちこちに空き家がたくさんあり、危険である。防犯上のことや、景観上も悪い。何とかならないか。

★浜田建設課主幹

国道へのアクセス道路については、補助の関係で、町村においては１路線が限度である。それが終わらなければ次に進めない。飯野地区で国道８号バイパス整備を行っている。八幡、横山など大きな集落から８号へ抜ける道は、ＪＲがあり横断が問題である。踏切の拡張は家屋が多く難しい。また、踏切の新設は認めないとのこと。桃李小学校の通学路は、ＪＲの手前で終わっているが、拡幅の見込みがないので、消雪工事を早めて実施している。海洋性レクリエーション基地、海浜公園の整備については、周辺の整備構想は、議会でも質問がされ、施設整備計画を考えたが、建設省の直轄海岸であり、大きな規模となる。あとは、町の単独事業となり、非常に難しいと考える。

☆杉本

８号からのアクセス道路については、特に、桃李小学校の合併の条件でもあったはずである。、子供の通学路を確保するためにも、側溝整備、排水をしてほしい。

★浜田建設課主幹

側溝については、暗渠がつぶれていたもので、現在直している。全面の側溝は年次計画が必要と考えている。

湾岸道路については、必要性を認識しており、県への働きかけを行っていききたい。

☆住民

町で計画している深層水の問題に関連してだが、海底のヘドロを採集したら、非常に臭かった。県、国へ補償問題を話しているのか。

☆その他

J Rの冬期間における事故防止対策を。通学路（横断歩道）の整備を。

☆区長会長

旧横山小学校プールを何とかしてほしい。危険である。

★林財政課長

通学路は、新総合計画で考えていきたい。プールの撤去に1500万円ほどかかる。町内には全部で6カ所あり、順次進めたい。

5、まとめ

6、地元議員あいさつ（谷議員）

閉会 10：10

舟見地区まちづくり懇談会

平成11年11月18日（木）

19：30分～舟見コミュニティ公民館

出席者 地区住民64名 町当局15名

1. 開会のあいさつ（野島政博区長会長）
2. 町政現況説明（米澤町長）
3. 総合計画概要説明（大木企画広報課長）

4. 座談会（座長・樽井弘和氏）

第Ⅰ部（まちづくり）

（１） のらんマイカーについて

☆7区長（小森）

のらんマイカーが運行されて半年近く経過したが、当初と最近とでは利用者数の変化があるのか。増便、運行距離短縮の計画、採算（赤字）経営がなりたつための乗員数は。

☆5区長（小林）

体育館、ふれあい交流プラザ・デイサービスセンター等の福祉施設への、高齢者のための交通手段はないものか。また、行事が開催される時の直通バス、施設利用バスの運行はないのか。

★飛田商工観光課長

6月から運行、6か月を経過。運行実績は10月までで、飯野・野中線で約3300人、一日約44名、横山・小摺戸線で2673名、一日約36人、合計して約6000人、一日平均40人、一便当たり平均7人の利用がある。

利用の目的をみると、7割がふれあい温泉、バーデン明日、医者、買い物ほとんどで、8時40分、16時の時間帯でクリアできるものと考えている。

1台3往復が限度。タクシー会社、高齢者などで運行管理委員会を設置し、ご意見を聞いている。アンケート結果、地区要望、改善点などのいろんな面を総合的に検討して、利用者の利便を高めたい。

★鬼原総務課長

イベント時のバス等の手配についてであるが、プレ国体において舟見地区

の応援するチームが決勝まで残ったが、輸送の関係で区長さん方が苦勞された。その関係で、この話がでたように思う。

ご存じの通り、今年のプレ国体では、全国26チームが参加し、来年の国体並の体制で臨んだ。選手、役員送迎、練習会場への選手輸送など、町では選手移動を優先しなくてはならないので、町民の輸送まで手が回らない。

イベントへの参加については、自ら参加することを基本としたいので、皆さんのご理解をお願いしたい。町は大会運営をやるので、町民は自主参加で応援ください。

（２）新規施策に対する町民とのコミュニケーション

☆ 8 区長（南保）

新規施策についていろいろあるが、深層水、ふれプラにしぼって質問したい。深層水については、広報にもでていた。議会便りの内容にもあった。これらの内容、事業内容をしりたい。海洋水活用検討委員会の活動内容をわかりやすく説明して欲しい。

ふれプラについては、議会の質問にもあった。プラザの周辺、健康、福祉ゾーン、健康・情報・交流の拠点などについて、わかりやすい言葉で説明してほしい。

★米澤町長

深層水の活用について、問題も有り、議会ともやりとりをし、3漁業との協議も済んだ。11月5日には、議長をはじめ、3漁業の組合長と共に、県漁連、県の方へも、お願いに言った。知事は不在だったが、町の方針を伝えた。

現在、県は12月補正を組んでいるところなので、深層水についても予算付けをお願いしている。おそらくうまくいくと考えている。深層水を、新しいまちづくりの起爆剤として活用していきたい。農業、医療、飲料、工業、電気、アトピーなど、いろいろな分野に活用出来ると聞いており、これからのまちづくりに役立てていきたい。

★鍋谷特定政策推進室長

深層水、ふれプラ両方を担当しています。「深層水とは何か」ということについては、広報などでもお知らせしているが、簡単に言うと、海の深いところの水のことで、上の方の水とは性質がいろいろ異なるため、その特性を生かして活用できないかと考えている。

栄養分（ミネラルなど）が豊富なので、水産物の養殖、健康にも良く、海の底なので、生物活動が少なく、水がきれいで細菌類が少なくい。また、水

温が年間を通して1℃前後と冷たく、その温度差を利用し、エネルギー（冷房、電気）としての活用が考えられる。

その資源活用の先進事例として、高知県がよくとりあげられる。富山県では、滑川に唯一の水産試験場があり、富山も全国的に見れば、深層水活用に関しては進んでいると考えられる。まだまだこれから、養殖、しょうゆなどの食品加工の分野でも活用ができ、高知では豆腐、お酒等、60社が商品開発をしていて、健康、医薬品への活用もなされている。滑川では、沐浴温浴施設が人気を集めている。

町としては、まず取水施設を作り、基盤整備をしたい。取った水をどう使うかということについては養殖などに関しては、付加価値の高いものとして活用したい。また、一般の利用については、まず、民間活用として、新産業の育成につなげたい。また、町民に利用してもらえるように工夫する。

取水施設は、沖合2500m～3000m、水深300mのところに設置予定で、建設費が約6億9千万かかる見込み。費用については、水産庁の補助を受ける予定で、これから設計作業に入り、来年度には本格的に着工したい。

ふれプラについては、その大きな目的として健康センター機能の充実があげられる。健康相談、健康づくりから一段飛躍して、保健活動全体の向上を目指すものである。介護保険に関連したホームヘルプ事業、社会福祉協議会などの機能充実を目指し、保健、福祉についてプラザ内で連携を図りたい。

情報化の推進に関連して、コンピューターが普及し、インターネットなど、いろいろな生活の要素となってきた。そのような状況の中で、情報化の推進を進める場所として考えていきたい。

例えば、深層水について、たくさん問い合わせがくるが、ホームページを見て連絡してくることが多い。町の他のいいところ、資源を情報化のなかで全国に向け発信し、PRしていきたい。入善町が全国に認知され、いろいろな形で町が発展するようにしたい。

☆3 区長（野島）

新聞が先走りしているようなこともあると思うが、新聞記事で、施設が縮小されるとか、漁協の負担が減ったとか水産分野については、いろいろ取り上げられている。また、ふれあい交流プラザについても、リラクゼーションルームだとか、内容が不明な物が多い。言葉自体が難解なので、親切にわかりやすく示してほしい。また、使用する場合は使用料がいるのか、自由には入れるのかについて教えてほしい。

★鍋谷特定政策推進室長

水産と非水産のことについて分けて説明すると、70%は水産用に活用ということで水産庁の補助を受け、30%は町単独でいろいろな部分に活用したい。しかし、補助事業が中心であり、水産業関係者との調整に時間がかかり、新聞などでクローズアップされた。水産業はもちろん、非水産部門でも活用し、町の発展に尽くしたい。

また、ふれあい交流プラザについては、言葉がわかりにくいというご指摘なので、申し訳なく思う。広報などで回数を重ねるなどして、もっとお知らせしたい。皆さんが、喜んで来ていただけるようなアイデアをかんがえたい。利用の際の入場料については、一部有料になるものがあるかもしれないが、基本的には入館無料ということで検討している。

第Ⅱ部（地域課題）テーマ

（１）舟見地区のまちづくり

☆1区長（魚津）

福祉施設の充実について、介護保険制度が実施されると、特別養護老人ホームやヘルパーの数の確保はできるのか。軽い痴ほう症などで、要介護認定をはずれた場合の町の対応は。また、保険料が払えない低所得者の救済措置は。

★上田健康福祉課長

特養施設について、現状では少し足りない。施設整備は介護保険組合の1市3町でやっていく。ホームヘルプ事業も広域で基盤整備をしていく予定である。

1市3町の特養のベッド数は、現在のところ310床あり、入善はおよそ100床あるが、足りない。黒部、朝日では、各50床ずつ作っているところなので全部で410床になる。

待機者が多く50人を超える。入善では判定済み58人、相談3人いるが、入所判定を受けながらも待機している方が多い。12年度に50床の建設を予定しているが、まだ足りないので、ショートステイなどを活用して対応したい。新しい特養ホームにもショートステイのベッドを20床用意したい。

町には登録も含めて、ヘルパーが28人いるが、ぎりぎり、めいっぱい活動しており、要望に応えきれなくなっている。JAがホームヘルプ事業に参入し、30人の登録がある。さらに民間の企業で参入の申し出が2社ほどあるので、需要についてはまかなえるとおもう。

少なくとも現在サービス受けている人は、自立と判定されてもサービスを

継続していくということが首長会議で決定した。これから新しくサービスを受ける人についても、状況を見ながら対応する。

介護保険は、40歳以上の人は加入しなければならない義務があり、加入しないわけにはいかない。保険料については、未払いの場合はペナルティがあり、全額自己負担ということになる。現実問題としてどうしても納めるお金がない場合の減免については、市町村の判断に任せられるということを聞いているが、具体的には決まっていない。今後、1市3町で協議していくことになる。

☆野島

軽い痴ほう判定された場合はどうなるのか。

★上田健康福祉課長

調査判定で自立等を判定するのは難しく、その時々で変化することもあるようである。たとえコンピューターで自立判定を受けても、審議会で医者等の、再判定状況をみながら弾力的に運用していくようにする。身体障害などの状態を考慮し、客観的に見て、快適な生活を送るためにはどうしても必要と判断したときはサービス提供を行う。

高齢者対策

☆野島

このまま高齢者が増え、介護を受ける人が増えるにもかかわらず、少子化により保険料をかける人が減ると、保険料が上がってしまう。介護を受けることなく元気な老後を過ごせるような高齢者対策があるのか。舟見地区では、70歳以上の夫婦が76世帯あり、そのうち一人暮らしの世帯は46世帯ある。老人を元気にする場として、ボランティアなどを考えている。高齢者を元気に遊ばせる場所がないものか。施設などを設けてほしい。

★米澤町長

元気で長生きできるような施設、集まってボランティア活動ができる施設等の建設については、県でも町でも考えるようにとの意見がある。町では今のところ、公民館を利用していただければと考えている。また、一軒屋を活用し、お茶などを飲みを集まったりするような場を設けたい。今後、十分に検討しなければならないが、どういうふうな場所で、どういった内容の運営をすればいいのかご意見をきかせていただきたい。

☆秋田

舟見小学校の跡地に建設したらどうか。山の方に、山の本陣などの施設があるが、坂がきつくて高齢者には不便である。お年寄りの集まりやすい場所にしてほしい。

☆戸出

シルバー人材センターでは、盛んに事業をしている。そのような、働いて稼ぐことができるところが欲しい。魚津には作業所があるが、町には作業所はない。障子貼りなど、屋内でできる施設を作る気はないか。

★上田健康福祉課長

シルバー人材センターでは、65歳以上が登録して毎日仕事に励んでおられる。現在のところ360名が登録し、1億2000万円を売り上げている。生きがい対策につながるものとして、シルバーワークプラザなどを建設したい。早くしたいと思うが、お金も場所もない。シルバー人材センターの事務所も老福センターに間借りしている状態であり、独り立ちできるようなプラザを作りたい。実現できるよう住民の皆さんの後押しをお願いしたい。

☆野島

過疎化の原因、人口増対策について、世帯数は減っていないが、若者が少なくなった。その原因は、子供がいなくなったためと考えられる。5歳以上の子供は、80人が5年後には40人になる。若者を増やすことができるような魅力あるまちづくりが必要では。具体的には、産業の開発、雇用の創出、観光開発、舟見の振興策を考えていただきたい。

★飛田商工観光課長

商工観光課は、観光や町のPRが仕事である。町のことをPRしながら、町の活性化に取り組んでいる。現在の雇用情勢をみると、新規採用就職率は大卒で50%前後、大手企業はリストラを進めている。入善町での採用は、今年30人、来年は30人をわりそうである。国などで雇用対策をやっているが、製造業を誘致するなどは困難である。お年寄りの知恵を活用したベンチャー育成など考え方を変えなくてはならない。発想の転換が必要である。

また、舟見城址館、いろり館など入善にはいろいろな観光施設があるが、いろり館は3か月先まで予約が入っており、町で最もお金をかせいでいる施設である。この施設に類似しているのが「長者の湯」といって、長尾地区にある30軒からなる宿泊施設がある。ここでは、地区に運営をまかせており、地区住民が食事を用意するなどして、一泊1500円で宿泊でき、大変儲か

っている。舟見山を中心とした観光開発、地域対策などを考えていきたい。

★米澤町長

振興策については舟見地区は伝統ある地区と思う。名所がある。なにかの形でつないで核を作り、観光に生かしていきたい。ふれあい温泉には10万人、山の本陣には85000人というように、かなりの人が来ている。まだ、十三寺などを活用し、時代を思わせるようなまちづくりをしていきたい。町も協力したいので、よいアイデアがあればぜひ教えていただきたいし、お互いに考えていきたい。

☆舟本さん

負釣山には駐車場がない。10台、30台きてもとめられない。駐車場を自前で作っている。駐車場の拡張をしたらどうか。簡易トイレも欲しい。(近い山が自分の山) 林道、整備をしているが、個人が整備をするものでないと思う。町がするものではないのか。

★飛田商工観光課長

長期的なもの、短期的なものがあり、緊急を要するものは対応するようにしたい。

(2) 舟見小学校跡地処理について

☆山本さん

ひばり野小建設委員会に所属していたことがあり、道路整備などよくなった。跡地問題の前進として評価できるが、跡地そのものの整備が遅れている。この前視察にいった福井県の宮崎村というところでは、41区画の宅地造成をしているところがあり、あっという間に売れた。12, 3万のところ7万で売っているようである。舟見でも宅地対策を。定住対策として、思い切って、若い人に優先的に販売できる工夫をしたらどうか。消雪設備も整っており、冬のマイナスイメージはない。町がリードすれば、業者もくる。単価も安くなる。

また、高齢者対策も重要だが、少子化対策として若者の定住対策を。舟見地区は住みよい地区であり、住環境もよい。町単独でぜひやってほしい。ひばり野小ももったいない。若者定住施策の呼び水にしたらどうか。

★林財政課長

跡地利用については、8年に陳情書がでている。跡地利用委員会から3年連続で要望されている。道路等社会資本の整備をしないと成り立たないので

はと考え、農道などを整備した。

旧校舎の跡地を利用して、子供の国、道路、駐車場、スキー山、ゲートボール場、の整備などいろいろな案がある。借地の２人については、道路とのかねあいもあり、今後協議していく。提案の趣旨にあった宅地造成についても、人口増対策の一環となるものであるので、一つの方法であると思う。財政が厳しい中、一挙に整備というのは難しい。高齢者の集合場所などは全地区で要望が多いので、徐々に整備していきたい。宅地は元がとれるようなので、検討していきたい。

☆山本さん

坪７万だったら売れると思う。ライフラインなども共同整備し、永住などの用件を整備するとよい。基本的な人口増対策を考えていきたい。

（３）上下水道の整備について

☆６区長（三賀）

上水道について漏れ水が使用量の２倍あると聞く。改修には、基本計画では４億円かかるということだが、負担額はいくらになるか。実施計画はいつごろなのか。

下水道問題について小摺戸地区、新屋地区などで９０％の同意を得ているそうであるが、事業採択には何％の同意が必要なのか。また、話がまとまったところから事業化するということであるが、舟見だけ単独で事業採択可能か。

★本多下水道課長

簡易水道の現況を説明すると、昭和４４年に町の管理となり、給水世帯４４０世帯、人口１６６０人が使用し、配管約１６ｋｍある。老朽化のため、６０年から少しずつ更新している。今回、改善計画の策定にあたり、専門業者に調査委託したところ、１６ｋｍ全ての配管を更新し、貯水池の増設を行うと約６億かかるということである。既存ルートで、２０年以上のもののみを直しても、９ｋｍの埋設を更新しなければならず、３億７千万円以上の事業費が必要である。

将来性、経費、受益者負担を考えると、悩みが多い。改善が急務な２０年以上のものを直してみてもはということで、県とも相談している。補助事業として、議員、地区の皆さんと別に会合を持ち、来年の今頃までに結論、話がつけば、１３年度から事業化したい。財源問題を整理すると、今のところ１／３が受益者負担になる。５年据え置き２５年償還で実施したい。区長を通じて話し合いの機会をもうけたい。

下水道については、小摺戸についてはH9～13年度、新屋についてはH12～16年度ということでまとまった。補助事業であり、国の採択基準が厳しくなっている。小さな規模ではだめで、効率化、維持管理の節減をしなければならず、一地区人口2000人以上の規模が必要。野中との関係であるが、総合的にまとまった形でやる必要があるのでは。浄化センターは自然勾配を利用するといった観点から、下流域にいくのが当然であり、舟見だけ単独でというわけにはいかない。実施までの準備期間は3～4年が必要。まず、推進委員会を設置し、同意率は、おおよそ100%近いものが必要といわれている。受益者負担の問題もあり、舟見・野中地区として一緒に事業化をしたい。

5、まとめ（木本助役）

6、地元議員あいさつ（大林議員）

7、閉会 21：50

野中地区まちづくり懇談会

平成11年11月22日（月）

19：30～農村婦人の家

・出席者 地区住民53名 町当局16名

1. 開会の挨拶（大割恒男区長会長）
2. 町政について現況説明（米澤町長）
3. 総合計画策定について概要説明（大木企画広報課長）
4. 座談会（座長・板東久男氏）

＜ルール説明＞

生活環境の整備に密接なものとして第Ⅰ部では、道路と下水道をテーマにした。

第Ⅰ部（まちづくり）

（１）県道黒部・朝日公園線の拡幅について

☆水野さん（中沢区長） ＜趣旨説明＞

県道黒部・朝日公園線は野中のメイン道路でもあり、拡幅についての同意を得てから日数がたったが、県土木からの連絡がない。どのような状況になっているのか。

★松島建設課長

ここに来るときに県道黒部・朝日線を走ってきた。ご存じのように、権蔵橋を作っているところで、それに伴い、JAの新屋支所までの道路はできている。同線については当時、地元で現道路の拡幅とバイパスの2案があり、朝日町とも協議が必要であり、現在のところは路線決定が行われていないと聞いている。若栗地先から新屋までの区間が完了後となる平成14年の供用開始に向けて努力中であるが、計画区間の工事完了の見通しが立たないと、次の計画認可申請が行われないので、小摺戸で用地取得が1件残っているのを解決することと、バイパスか現道路の拡幅かを地元で決定していただくことが先決である。総論賛成、各論反対では困るので、地権者の協力が第一である。後世に悔いを残さないよう、地元でバイパス、現道拡幅かを決めて欲しい。

☆座長

建設課長の話しでは、路線は地元できめてほしいということだったが、皆さんはどうか。

☆金山さん

バイパスか、現道拡幅か、地権者と相談しながら陳情したほうがいいということか。リーダーが苦勞するので、県の土木の方で、どこかに重きを置くのか分かるとやりやすい。

★松島建設課長

道路は公団、国、県、市町村というように分かれている。従来はまっすぐが一番ということでやってきたが、県道などは考え方が変わってきており、道路行政は物件移転を避けながら、住民要望に応える方向で進めるようになっている。同線についても、当時の考え方と若干違ってきているのではないかと思われる。

☆西島さん

県道のそばに住んでいるが、拡幅について、平成9年8月に、増改築したときに確認申請を初めて出した。県道ぎりぎりまでの増改築ということで出したが、県土木から何も言われなかった。住宅の移転はさけてということは以前から聞いている。平成14年の供用開始時に新屋の交差点までくるということであり、あと2年後にせまっている。県からの計画を示して欲しい。

バイパス化については、基盤整備されているので、簡単ではない。この先どうなるのか。県の事業であるので、町に言っても限界があるだろうが、計画を早く進めてほしい。

★松島建設課長

県土木には地元の考えを伝えたい。

☆小松さん

総論的な話であるが、舟見・入善線は町へ出る縦の道、入善町を横断するものとして8号線、スーパー農道などがある。野中地区にとっては、県道黒部・朝日公園線は、朝日町や黒部市との文化交流のために大切なものであり、野中の発展のために必要である。道路の問題について、方法は協議をしながらということになるが、早期拡幅をしてもらいたい。

☆座長

拡幅に伴い、ひばり野小から県道までのあとわずかの区間で止まっていて、その先をのぼす計画がない。朝日線がきまらないとだめだ。改良区の関係で用排水事業の改修がストップしていることもあり、早く拡幅して欲しい。

★松島建設課長

野中地区には大切な道路が２本ある。交差点から７０ｍ以上はなれないと、新たな交差点は作れないという決まりがある。また、１．１キロ未満では事業認可が得られない。だから残している。交差点がどこになるかで方針が異なる。できるだけ早く地元で黒部・朝日線をきめていただければ良いと思う。そうすると、縦の道もうまくいくと思われる。

★木本助役

バイパスか拡幅かは、地元で決めて欲しい。平成２、３年ごろにも出ていたが、順次やるということであった。バイパスの構想は地元から出たと記憶している。はっきりしないで、２案があるのは好ましくない。平成１４年以降の事業については、それまでに地元の意見を明確にしてもらいたいとのことであった。以上のような経緯があったことを申し上げておきたい。

☆座長

関係者も協力し、理解もしなければならないが、町も県に働きかけることをお願いしたい。県の計画を示すように県に伝えてほしい。

（２） 町下水道に関する事業計画について

☆佐郷さん

町の下水道事業は３年前から始まっているが、野中でも（１）と並んで関心の高い課題である。地球環境汚染が社会問題となっている今日、野中での計画がどうなるかを聞かせてほしい。地元では早期着工を望んでいる次第だ。

★本多下水道課長

野中は農林水産省の補助事業でやりたいとお願いしている。小摺戸地区は平成９年度～平成１３年度、新屋地区は平成１２年度～平成１６年度で重複採択をしてもらっている。近年は、農水省の採択が厳しく、事業の効率化、コスト縮減、持管理費の縮減などが採択の要件として加わっている。したがって、舟見地区とあわせ野中・舟見１地区で事業化すべきと考えている。また、下水道事業は自然の勾配を生かして配管などを行っていることから、

その原則をご理解いただきたい。

浄化センターの設置場所の問題など、採択まで多くの時間が必要である。その他にも、同意書の取りまとめの問題など、クリアすべきことがたくさんあり、それから事業計画を作成し、国の審査を受けることになる。したがって、準備に2年は最低かかる。一般的な手順なら3年は必要である。これからやっても新屋が半分終わった頃にいよいよスタートということになると思う。まず、推進委員会を組織し、皆さんで課題を解決する準備をしていただきたい。また、舟見地区とも話し合ってほしい。同意書などについても、町としても一生懸命やるので、地元も努力してほしい。

☆座長

明るい話はないようであるが、皆さんはどう思われるか。

☆西島さん

野中の地元で同意書を早くまとめれば、早期着工になるのか。要望したところから事業化になるのか。また、事業費は。受益者負担の金額は。

★本多下水道課長

野中だけでは事業採択にならない。維持管理費、コスト削減をかんがえると野中だけでは無理である。受益者負担については、現行の条例では25万となっているが、いつまでもということではない。建設費が上がると25万より上がるであろう。

農水省は土地改良事業と一緒に考え方をするので、同意書が必要である。同意書がないと事業採択にならない。同意書がまとめれば、短いあいだで事業採択になるし、工事期間も短い。

☆住民

四千石事業を合体できればコスト的に安いのではないか。区域外であるが、野中、愛本新共同企業体をつくっていかないとできないのでは。

★木本助役

事業そのものでいうと、土地改良は県営、下水道は町なので、難しい。同時実施すればコストが安くいいのだが、土地改良事業が先行しており無理である。

☆水野さん

大きな問題点がいくつかあるが、浄化センターの建設は下で作らなくては

ならないということであるから、必然的に野中で作る必要があるようである。
その他、問題点があれば聞かせてほしい。

★本多下水道課長

同意書をいただき、意思を確認することが第1である。同意率は100%に近いものが必要である。小摺戸は99%の同意率で、新屋は98%の同意率であった。次に浄化センターの位置の問題であるが、理屈では理解できるが、実際に建設するとなると、なかなか難しい。そこで推進委員会の設置が義務づけられている。浄化センター建設後は管理組合として機能する。

☆水野

浄化センターの規模は。

★本多下水道課長

整形田は農振除外の問題があり、難しいが、規模的には2500㎡前後あればいい。

☆座長

野中だけではできないということであるので、舟見地区と話し合いながら早く事業化できるようにやっていきたい。

Ⅱ部（地域課題）

（1） あぐり館について <趣旨説明>

☆小松さん

・研修室への冷暖房設備の充実について

あぐり館は、開館してから2年が経過し、トータル3万人近くの利用者がある。当初は上手に活用できるか心配だったが、今では順調だ。

以前、役場農政課にいく用事があって行った時に、座談会が始まってしまったことがある。これこそ役場だ、ということを言われ、感心した覚えがある。これからは地方の時代といわれているが、住民参加によるまちづくりということで、このような懇談会を開催している町の姿勢に賛同している。

あぐり館の運営についても今日、地元の皆さんが、行政との協力体制で臨んできた。水車も寄付され景観もよくなった。活動の内容は、陶芸が初公開ということで12月11日に町民会館で、いろはがまの展示会をやる。見事な作品ができるようになった。施設ができてうれしい。

また、夏場に利用が多い。10月の大会で野中地区がウオークベースボー

ルで優勝できたのは、あぐり館で練習できる環境があったからだと思う。夏は、スポーツ少年団の合宿や、森田前衛舞踏の合宿が10日間ぐらいあり、公開練習をしてくれた。普段見ることができないような催しがあって嬉しく思っている。

このような夏場の利用が多い中、国体の選手も合宿したいという申し込みがあった。しかし、この施設は冷房がないということでキャンセルになった。2階が宿泊場所となっており少々暑いので、冷暖房施設があれば、宿泊利用者ももっと増えると思う。

・町の新規特産品「シソ入り、アマランサス茶」開発に伴う生産体制及び販売への支援について

あぐり館は、あぐり委員会を地域で組織し文化・教育・農業活動などを行っている。農村らしく活性化し、町内外に発信できる元気な地区になりたいと思い活動している。休耕田を利用して、さつまいもを60口600本植え、芋掘りの時には、入善幼稚園150人が参加した。あぐり館フェスタでは展示もした。

また、特産物の加工にも取り組んでおり、商工会の方で作っているシソジュース「ペリラ」の原料であるシソづくりにも携わった。委員のボランティアや、老人会にも僅かな賃金で、葉っぱむしりを手伝ってもらった。さらに特産物として、しそ入り茶の生産に取り組んだ。アマランサスと合体し、シソ入りアマランサス茶というものを試作、試飲でいけるなというところまできた。これは、特産物の一つとして、プレ国体で展示もした。山本さんが、池袋の特産品展示即売会に出すため、入善町の商工会、富山県人会へ100袋提供した。

このアマランサス茶を組織的にしっかりし、生産体制を築きたい。どこん成分抽出のための焙煎機を購入するなど生産体制の基本的整備をし、特産物化を進めたいので協力がほしい。

★上原生涯学習・スポーツ課長

平成9年11月22日にあぐり館が開館し、当初は、これほどうまくいくとは思わなかった。地元の人たちの協力のもと、多数の利用者があり嬉しい。あぐり委員会など、皆さんの努力に感謝したい。

冷暖房施設の整備については、当初は宿泊をあまり重視していなかったのであるが、お話を聞くと、今後の整備が必要かと思う。今のところ談話室1室だけに完備されているが、宿泊室1室にあたり100万円近くかかるようである。また、宿泊が頻繁になると、設備の充実が必要で、消防のほうから

も誘導灯などを設置しなければならないということで、それについても60万円ほどかかる。一室ずつ順序よく、順次新年度予算に盛り込みたい。老朽化も対応しなければならないので、少しずつやっていきたい。

★大角農業水産課長

町の特産物は数はあまり多くなく、「野中づけ」「へちま水」「青島漬け」などがあるが生産体制、販路などの問題から産業として育ちにくいのが現状である。

アマランサス茶を飲んだ経験があり、その生産には期待している。補助的な話しをすると、県でフレッシュファーム事業がある。3軒以上の農家が集まって、事業採択を受けて特産化に向けて進む方法がある。町としても協力したい。

☆小松さん

県の事業について事業総額はいくらなのか。

★大角農業水産課長

150万が限度である。

☆小松さん

後日、具体的な相談に伺いたい。

また、あぐり館の館長は教育長であるが、あぐり館は公民館の補助的な形も備えていると思う。この働く婦人の家には多目的広場がないので、ウォークベースボールの練習などについて、講堂を優先的に使わせてもらっている。公民館の補助的な活動はいいということだった。体育室を使ってもお金はいいということであった。性質のちがうものかもしれないが、今までどおりの使用をお願いしたい。

★上原生涯学習・スポーツ課長

婦人の家に不足する設備で、あぐり館を活用するときは無料でよい。ただし、きれいにつかって、清掃を自主管理でお願いしたい。

☆小松さん

これからも積極的な利用を進め、野中から元気発信をしていきたい。

☆女性

宿泊の人で、夜中まで大きな声で話し、電気がついている。心がまえをし

っかりするよう指導して欲しい。

★上原生涯学習・スポーツ課長

利用する団体に注意していきたい。いろいろトラブルもあるかと思うが、広い心で見守ってほしい。

☆座長

その他事項で提案・ご意見があったらお願いしたい。

☆窪野さん

黒部・朝日公園線について、参考までであるが、新屋の十字路までの島、墓の木の人たちの取り組み方を聞かせて欲しい。物件の移転もあったと思う。地元からの強い要望があったのか、それとも町等の強い働きかけがあったのか。

★大林議長

取りまとめにあたって、県、鹿熊県議と協議をした。結論としては地元にもコースを任せた。県では地元で方針をきめてほしいという体制である。町、町議、だれがいてもだめで、地元での話はまとまっているのかということ聞かれる。同意書が必要である。野中地区で促進協議会などをつくって、協議して欲しい。

また、橋の改修も、路線決定後でなくては進まない。

下水道については、新屋はまとまってから、浄化センターなどでもめた。95%以上の同意がなくてはできない。農水省の採択について、条件が厳しいといったのは、舟見・野中が一体化することが必要だと課長がお願いしたのだと思う。新屋は平成12年の採択をいただく予定である。

県道、下水道は地区民の同意が前提だ。以上、当局に変わり、返答した。

☆窪野さん

現状拡幅か、バイパス化のどちらかという問題は、風の便りで、現状の拡幅ときいていたが、ある日突然、バイパスの話しがでてきたように思い、地元でも混乱している。時間がかかると心配である。

また、下水道工事については、掘り返した後がガタガタで、業者によって仕上がりが異なる。もっときれいにしてほしい。

★本多下水道課長

舗装は交通事故などの防止のため、終わった箇所をすぐ舗装するようにし

ている。だからガタガタのところもあるようだが、後でまとめて舗装し直しすることになっているので、ご理解をお願いしたい。

☆座長

道路については、地元でまともな県も取り組んでくれるようなので、今後努力していきたい。

★林財政課長

不景気な時代、県も財政が厳しい。陳情はしていたが、地元での協議・同意が大切である。下水道は、新屋が平成16年で終わる予定である。平成15年から実施するということであれば、野中・舟見地区で一体となって、そろそろ準備に入った方がよいということであるので、協力をお願いしたい。

5. まとめ（木本助役）

6. 議員あいさつ（大林議長・九里議員）

7. 閉会 9：30

4、ご意見カード集約

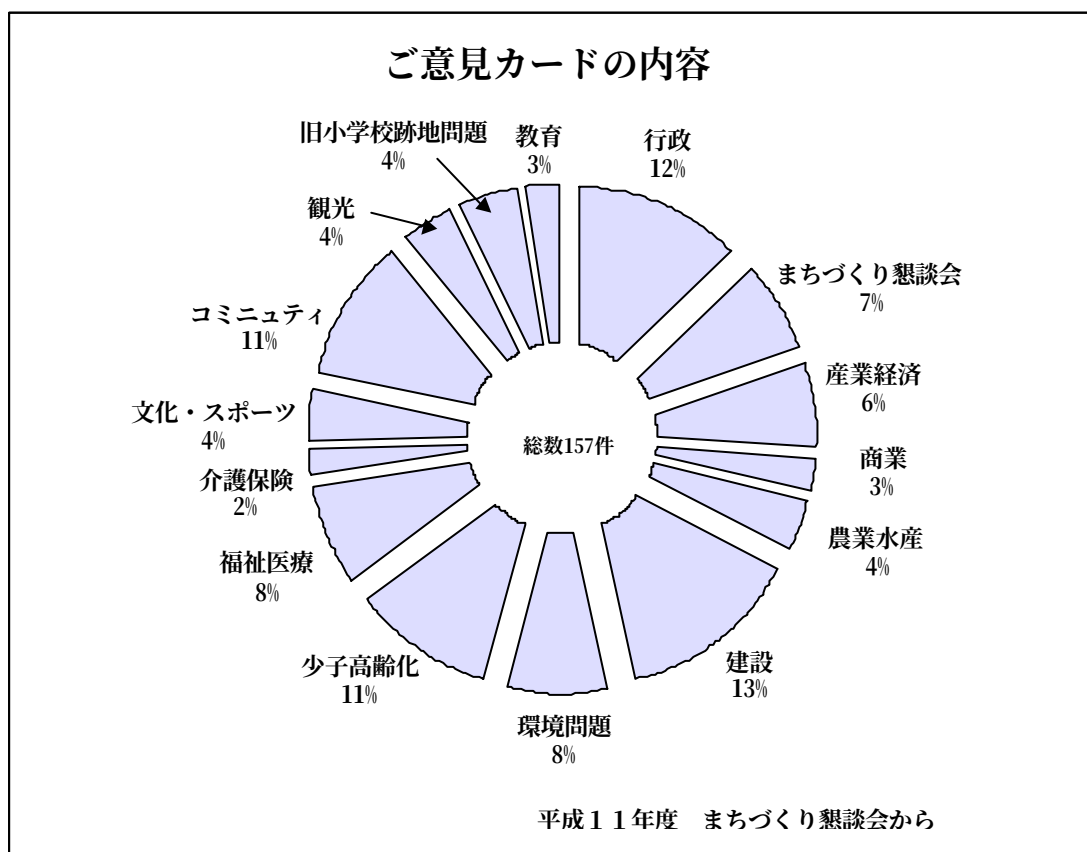
(参考) 配布したご意見カード

まちづくりへのご意見カード



・あなたが日頃思っているご意見、ご要望、提言などを自由に書いて下さい。

・このカードはお帰りの際に、受付へ出して下さい。また、後日出される方は、区長さんを通じて企画広報課までお出しください。



平成11年度 「まちづくり懇談会」 ご意見カード集約

No		ジャンル	内 容	備考
1	3	議会	青年議会をやるべし。若者の自由発想の意見を述べれる場所等、当局が作ってやる。	
2	5	議会	議会の答弁が、傍聴者に聞き取れないので、もっとわかるようにお願いします。	
3	5	企画	町民が交流するイベントを数多く設ける。	
4	3	企画	行政主体のイベントの開催	
5	4	自治	集落の線引きについて、町当局として今後検討する必要があるのではないのでしょうか。	
6	7	自治	市町村合併をして、より豊かなまちづくりに力を入れて欲しい。	
7	4	情報化	情報化の促進。行政お住民のパイプを太くする。	
8	2	総合	「上原地区の活性化」のため種々対応ではなく「入善町の活性化」という大所にたった計画推進をお願いしたい。それが上原地区の活性化に大きく結びつきます。	
9	3	総合	これからも町発展のため協力します。	
10	5	総合	町の人口を減らさぬような基本計画と、その確実な実行が必要だ。 (中略) 従来の箱モノ施策ではなく、若い人を惹きつける魅力をどのように育てていくか真剣に考えていく必要を感じます。 (中略) 何を目指すか、各世代別に広く座談会などで求め町民が一丸になった基本計画を立案、実行していくことを希望します。	
11	7	総合	21世紀は大店舗の進出で商店街は低迷します。活性化するのは無理だと思う。町の中にある飲み屋も、コスモあたりにたくさん出来ると町で飲む人が少なくなるでしょう。 高齢化が進む中、若者の2倍のお年寄りがいる時代になるので、施設の充実化を図る。	
12	7	総合	今の若者は、昔の伝承とか、町の文化等を大切に受け継いで欲しい。むらづくりを推進して将来の残して欲しい。	
13	9	総合	町が起案し、活動が続けているものに対し後押し体制を強めていくべきである。	
14	10	総合	当地区は「過疎地」であり、その中で「あぐり館」は活発なる活動を実施しており、今後も絶大なる協力をお願いします。	
15	1	総合計画	総合計画の策定委員が重要な問題である。(中略) 総合計画の策定委員に女性の審議委員を登用していただきたい。	
16	7	総務	町や各地行事日程調整を密にして欲しい。特に農協の行事と充分調整願います。	

平成11年度 「まちづくり懇談会」 ご意見カード集約

No		ジャンル	内 容	備考
17	1	総務	寄贈された本により勉強していただきたい。	
18	1	男女共同参画	町会議員の中に、あまりにも男女平等を言っておられますが、女として少し反発を受けます。	
19	2	地方分権	地方分権に伴う市町村合併は21世紀の最重要課題である。介護保険をひとつをとっても、1自治体で運営できることが困難となっている。ぜひ町村の合併を推進されたい。	
20	3	ふれあい交流 プラザ	大型公共事業（ふれあい交流プラザ）を実施するときは、経済状況にあったものにするのは当然であるが、施設の設置目的からは外れによろしく10年先を見越した計画を立てて欲しい。また、完成図に基づいた駐車スペースの確保（コスモホールのような中途半端なものにしないよう）	
21	1	まちづくり懇 談会	今までの町政懇談会に比べ、この形式は大変実りがあったと思う。	
22	1	まちづくり懇 談会	まちづくり懇談会は有意義でした。拓かれた町政の第一歩でした。	
23	2	まちづくり懇 談会	住民の意見を聞くときは、前もってテーマを決めて集中的に議論を進めてもらいたい。	
24	3	まちづくり懇 談会	テーマを先に提示し、問題意識を持たせて欲しい。	
25	3	まちづくり懇 談会	テーマの数、設定時間を再考する。	
26	3	まちづくり懇 談会	今夜のような懇談会に当地区の役場職員が参加していないのは何故か。役場職員は地区の声を聞き（より住みやすい地区を創り上げる努力がみえない）地域住民のために働いてこそ感謝するが、単なる事務屋になりきっていないだろうか。	
27	3	まちづくり懇 談会	なぜ女性の声を聞こうとしないのか。女性べっ視である。	
28	7	まちづくり懇 談会	前回の町政懇談会にでたテーマに、その後どのように対処したか報告されたい。	
29	9	まちづくり懇 談会	20～30代をひっぱり込むやり方を考えるべきだ。いつも来る人は同じ。	

平成11年度 「まちづくり懇談会」 ご意見カード集約

No		ジャンル	内 容	備考
30	9	まちづくり懇談会	スタッフが多すぎるのでは。	
31	5	まちづくり懇談会	本日の回答事項を、確実に実行して欲しい。	
32	9	企業誘致	現在の町財政を支えている労農者は苦しんでいます。リストラ働き場の少ない事、高卒、大卒の就職率は50%だそうです。又中小企業に置いては全くの採算度外視の受注状態です。少子、高齢化、ボランティア等の問題も分かっていますが、生活が安定してこそではないでしょうか。 企業誘致こそ豊かな社会作り、仕事の問題、少子高齢化、社会福祉などにつながると思います。今、町では企業誘致に関する取り組みについての状況をお聞かせ願いたいと思います。	
33	1	経済	経済の見直し…もっと聞きたいです。	
34	9	経済	経済のマイナス成長の中でまちづくりをあきらめたらどうか。 人々の幸せとは何か、もう一度根本から見直せ。 地場産業にもっと本腰を入れて育成すべきである。	
35	5	就労対策	少子高齢化社会に向けて、町の産業や就労対策をどのようなビジョンを持ってあたっているのか。魅力ある地域振興策が必要と思う。特に若者に就職先を増やすことが義務ではないかと考えています。	
36	5	就労対策	入善町は暗い感じがする。若者が町に残るような企業等の誘致を考える必要がある。	
37	3	深層水	海洋資源の活用の深層水活用事業は夢のある事業であり、資源の研究や開発機関の誘致や関係者と充分協議の上着手頂きたい。	
38	3	深層水	公的研究機関の設置は進めて欲しい。 ①海岸の砂浜づくり②沢スギの保存③深層水について等研究の課題がある。役場内でも設置したらどうか。	
39	7	深層水	海洋深層水の研究開発を進める。（健康法として）	
40	7	深層水	観光の目玉として、深層水の早期着工で、入善特産○○等、全国にPRしたいものです。	
41	8	深層水	深層水事業は、採算の見通しをたててからやるべきだ。	
42	1	商業	プラント4には反対である。	
43	3	商業	大型ショッピングセンターの誘致	
44	4	商業	大型店の進出制限、条例化する。	

平成11年度 「まちづくり懇談会」 ご意見カード集約

No		ジャンル	内 容	備考
45	8	商業	大店舗法に係る進出店もぜひ止めるよう、町当局をはじめとした各団体が一丸になって、本町の無人を防ぐよう処置を望む。	
46	3	農業	日本の食の原点である農業。田をこれ以上減らさないようにしなければならないのでは。	
47	3	農業	町が農業にどうとりくんでいるのか。 ①後継者問題②採算性③採来性④休耕田の利用⑤Uターン、リターン、定年者が農業に参加できる町。	
48	4	農業	自然環境、国土保全という視点から、農業助成施策を検討されてはどうかを考える。	
49	5	農業	減反がもう少し緩和できぬものか。	
50	6	農業	おいしい米作りを心がけないと（勉強会等を通じて）米作りをする人がいなくなる。	
51	9	農業	高齢になってきたので、農業法人などの設立により、農業を委託できる組織を早急に取り組んで欲しい。	
52	3	J R	時刻改正に伴い、黒部止まりがかなりあるが、署名活動の結果が出ていない。通学、通勤環境を整備して欲しい。（黒部駅からのタクシー割引チケットの活用）	
53	3	J R	公共機関の利用というが、西入善駅すら数台しか駐車場（空き）がなくなってきた。たまに乗る人の切り捨てのように思えるがどうでしょうか。	
54	9	河川改修	町道愛本新野中線の小森武吉さんと小森光一さんの間でできるザイ川の改修を要望しているが、なかなかやってもらえない。早い改修をお願いします。	
55	1	下水道	下水道工事に、名前も聞いたことがない業者も指名に加わって工事を行っている現状、それで、施工上、管理体制が充分なのか。	
56	7	下水道	下水道工事はこれから20年後ということでしたが、あまりにも長いと思います。新総合計画のなかに、毎日使う下水道を10年間で完成する方向でやって欲しい。	
57	3	国道8号	青木地区を通る国道8号バイパス関係で、県道目川線の上青小学校通学道の交差点を「高架橋」として建設されるよう提案します。現場を視察の上検討を頼みます。	
58	3	住宅	若夫婦が安心して住める安い町営住宅があれば良い	
59	10	上下水道	中沢地区の水道管布設替えをして欲しい。	
60	2	新幹線	新幹線の話が次第に大きくなっているが、完成したときのメリット、デメリットを住民に開示する必要があると感じている。早く完成したいという話ばかりが聞えてくる。	

平成11年度 「まちづくり懇談会」 ご意見カード集約

No		ジャンル	内 容	備考
61	5	新幹線	新幹線の測道を12m道路の県道として欲しい。	
62	1	道路	入善町に住んで本当に良かったと思われるためには、道路の問題（無舗装）、用水側溝等の問題を一日も早く解決することが先決と思われる。予算上の問題はあると思いますが、できるだけ早く予算をつけて解決されることを、節に望むものです。	
63	3	道路	バイパス道路、目川地区県道交差点の角度についてなんの話もない。（水田の三角田の残地問題）	
64	3	道路	湾岸道路の話が出て早10年近くになるが、早期に具体化を望む。	
65	3	道路	8号バイパスは地区を2分する道路となるが、既存道路との調整について事前に協議して欲しい。	
66	3	道路	買収用地について耕作出来ない部分も残るので、残地については買収することとして欲しい。	
67	4	道路	道路の整備や消雪設備を促進する。	
68	5	道路	川の流れを横断する道路を作って欲しい。	
69	6	道路	町と山手との融雪装置の差がありすぎる。	
70	6	道路	路肩ポール等の整備を進めること。（町職員が日頃のパトロールでわかるはず）	
71	7	道路	入善町の行政も西高東低で東に行くほど行政の日が当たらずに不公平な面が多く、たとえ今時こんな事と言われてもしかたない事がいまだに出来て居ないのが現状です。当荒又地区に取りましても道路の未舗装が約400mぐらい残って居る、又道路拡幅も1.3km未だに片側未着工、県道羽入線の融雪も未解決、道路側壁も土地総合事業後草が生えている状態、環境の面でも消却湯の煙で悪臭がただよる地域に成っていて今は何から手を付けて行けば良いか解らない状態です、このままでは地区上書げて税金の滞納すれば等と言った意見が出る貌状です、町当局に一度視察に来てほしい貌状です、少しでも末端までひのあたる行政をお願いします。	
72	7	道路	県道羽入入善線と国道8号までの道路拡張を早急に町から県当局へお願いして頂きたい。地元から県へ要望提出を出してから4年が過ぎています。	
73	1	水の小径	入善用水上を延長し、墓の木自然公園まで、長い年月をかけ整備した方が、環境に良いと思う。運動公園の回りだけではない。	
74	3	環境	犬、猫の放し飼いはやめて欲しい。特に猫が納屋に住み着いて非常に迷惑。	
75	3	環境	燃えないゴミの回収を増やして欲しい。（燃えないゴミと燃えるゴミは1/3ではない）	

平成11年度 「まちづくり懇談会」 ご意見カード集約

No		ジャンル	内 容	備考
76	3	環境	ポイ捨て条例の進捗状況はどうなっているのか。	
77	3	環境	簡易トイレ（通称ポットン便所）を設置している家庭のなかで、農業用水に流している者がいる。町で家庭の取り締まりができないものか。	
78	5	環境	黒部川に従来生息していた魚が、放流に頼っている。不思議？原点を考える必要あり。	
79	7	環境	蛍やメダカが見られる町に。 ①生まれ、住みよい水辺づくり。②川の流れ作りを考える。③有効な草刈り工夫する。④薬物使用に注意する。	
80	8	環境	ゴミ袋に、スーパーの買物袋（半透明のもの）も利用できるようにして欲しい。	
81	1	ゴミ問題	河川へのゴミの投棄が大変多く見られる。投棄防止の立札等を増設し、取り締まり、パトロール等を実施して欲しい。	
82	5	ゴミ問題	舟見地区に産業廃棄物焼却場があるが、周辺の汚染チェックは行われているのか。	
83	7	ゴミ問題	資源回収（常時持っていくことができる施設）の場所を増やして欲しい。	
84	9	ゴミ問題	現在建設中の焼却場は生ゴミ、ポリ、ナイロン系など一緒にだせるのでしょうか。 もし、不可能の場合、木曜日はポリ、ナイロン系の収集日ですが第2木曜日はガラス、缶等の日ですが、ポリ、ナイロン系の塵芥が多いためか、間違いやすい収集の方々にも迷惑をかけています。ガラス、缶等の塵芥の日を資源塵芥の日のように別の曜日にしてくださいますようお願いいたします。 又4月に1枚の紙に塵芥の出す曜日とか、種別が書いてありますが1枚の紙ではなく地区別に12ヶ月カレンダーに書き入れて有りますと、祭日、お盆休み、正月休みなどに迷いなく	
85	3	防潮林	防潮林の草刈りと防除、サギ退治	
86	3	結婚問題	若い人が集まる場を作ってほしい。また、気軽に相談出来る場が欲しい。	
87	1	少子化	子供を多く作るプラン作りをし、もっと大人の人に子供に対する理解を高め、高齢者ばかりでなく、幼い子供たちにももっとあたたかい目を向けて欲しいと思う。	
88	1	少子化	公民館利用の学童保育をぜひして欲しい。（異世代間交流を通して児童を高齢者が見守るようになればステキな時代が来ると思う。） 新しく建物を作るのではなく、現在ある施設を利用すべきで、学童保育は最適と思う。高齢者の方には生き甲斐を、児童やその親には安心をしてもらえるのでは。	

平成11年度 「まちづくり懇談会」 ご意見カード集約

No		ジャンル	内 容	備考
89	3	少子化	児童手当、幼児医療費を3歳から6歳までに延長して欲しい。	
90	4	少子化	ハード面については大変素晴らしいものであり、他に負けないものがあるが、若者にアピールするものが感じられない。ソフト面の一考を。	
91	9	少子化	結婚適齢期の男が沢山いるのに、嫁に来てくれない。ペアが出来ないのに子供が産まれるはずがない。仲人を沢山育ててほしい。	
92	9	少子化	子供が町に住み続けようと思うような施策を展開すべきである。	
93	9	少子化	晩婚、少子化に対して罰則を設けるくらいの、子供が多く産めるまちづくりを目指すべき。	
94	9	少子化	延長保育や土曜日保育をお願いしたい。	
95	9	少子化	舟見地区が特に高齢化が進んでいるというが、若い人たちが残らないのは、今の50～70代の人たちにも原因があるのでは？就職や交通の不便だの問題ではないと思う。	
96	7	少子化	子供たちの遊び場の確保	
97	7	保育所	柵山保育所の建設を、平成13年度に間に合うように建設して欲しい。	
98	4	保育所	高島地内に建設中の「芦崎保育所」の名称を、「飯野第二保育所」とか「かもめ保育所」、「わかば保育所」などの地名に関係のない名称にして欲しい。（芦崎地区のイメージがあり違和感がある。）	
99	7	保育所	柵山地区は人口増加地区であり、それに伴って保育所に入所したくても受け入れてもらえないといった大きな問題がある。来年度はさらに増え、3歳児に入所させてもらえない深刻な事態となっている。	
100	7	保育所	①入所提出月が11月なので、4月から働きたいと思っている人は、11月現在で、働き口のない人、若しくは就労予定届けの提出が可能な人は入所できない。	
101	7	保育所	②保育所は、兄弟の入所が重なれば下の子の保育料が安くなるという利点がありながら、それを活かすことが出来ない。	
102	7	保育所	③今の柵山保育所は、定員90人が納められて、果たして子供たちにノビノビとした空間があるのか。保育所の増築又は新築を望む。	
103	2	医療費	昔は、自分の家の畳の上で死にたいと思っていたが、今は病院のベッドで死にたい。それも3ヶ月以内に。ボケで長生きするよりも病気で死にたい。3ヶ月以内に…。なんか納得できない。今の世の中、元気な年寄りにはきびしい！	

平成11年度 「まちづくり懇談会」 ご意見カード集約

No		ジャンル	内 容	備考
104	1	高齢福祉	高齢者の持っている能力を、ぜひボランティア等で利用できるように受け皿作りを整備して欲しい。	
105	1	高齢福祉	深層水事業などより福祉の制度（サービス）にお金をかけて欲しい。（中略） 自分で住み続けられるように支えるシステムにお金を使って欲しい。将来は、ホームヘルパーの夜間巡回なども視野に入れて欲しい。そのためには、ホームヘルパーはしっかりとした身分が位置づけさべされているべきです。	
106	1	高齢福祉	特養施設の利用者が減った場合の活用も考慮して欲しい。	
107	1	高齢福祉	寝たきりや痴呆予防対策等に従事する関係職員に対して研修を行い、資質と教養を高め、町民の自己管理に努める。	
108	2	高齢福祉	特別養護老人ホームは、人とのふれあいが自由にできる人の集まりやすいところにつくればよい。外国で、中学生が特養で歌を歌っている場面にあった。心のバリアフリーの実践	
109	3	高齢福祉	高齢福祉は単に年金を支給し、医療を過度にサービスすることではない。有機農業の野菜作りを特産化し高齢者に野菜をつくってもらい、もっと仕事をしてもらう。	
110	3	高齢福祉	入善町独自の高齢者対策として、生涯学習、福寿講座を開催してほしい。	
111	5	高齢福祉	福寿会の補助が下がってきている。（中略）補助の増額をお願いする。	
112	8	高齢福祉	特養ホームの増設をお願いしたい。	
113	9	高齢福祉	雨がふっても出来る、屋根付きのゲートボール場を作って欲しいものです。	
114	9	高齢福祉	空き家を託老所等にと、いうことには大変賛成です。	
115	3	介護保険制度	介護費用のうち、人件費の占める割合が多いと思うので、介護助手として有償ボランティア（正規助手の1/2-1/3程度週1-2回ほど）を募ってはどうか。保険料支払い者に意識調査をしてみてもどうか。	
116	5	介護保険制度	介護保険料の徴収方法を明示して欲しい。額はいくらになるか。	
117	9	介護保険制度	介護保険の負担→健康な人を増やす→食事、運動を活発にはgoodだと思う。	
118	3	スポーツ	年間を通して夜間照明を9時30分頃までお願いしたい。	
119	3	スポーツ	温水プールの建設	

平成11年度 「まちづくり懇談会」 ご意見カード集約

No		ジャンル	内 容	備考
120	7	スポーツ	温水プールの建設	
121	7	文化	古く使っていない農機具の取り扱い 現在ある古い農機具を、所有者から聞き取りし、価値があると認められるものを認定し、保管（所有者が保管）し、展覧会を開催してみる。	
122	7	ボランティア	プレ国体の清掃ボランティアを、国体が終了しても今回を機会に、今後も年4～5回程実施した方がよいと思う。	
123	7	レジャー	墓の木のキャンプ場を、料金をとってオートキャンプ場にして欲しい。	
124	5	河川敷利用	黒部市側と入善町側の河川敷の利用の差がありすぎる。憩いとなる施設を検討されたい。	
125	5	河川敷利用	河川敷を整備し、町民の憩いの場にして欲しい。	
126	3	サイン	交通事故防止のため、通学路の指定と、表示看板の設置。	
127	10	サイン	催事場の道路標識等を主な所に立てて欲しい。	
128	3	公園	黒部川の公園化には反対する。 自然のままでいい。なぜ川までに公園を作る必要があるのか。水の流れが少ないので有効利用のためなのか。自然の流れが少なくなった町の川が多いなかで、せめて黒部川をそっとしてほしい。（治水を考えた上で）	
129	1	公民館	中央公民館の利用も大切であるが、各地区にある公民館は住民にとって身近な存在である。 閉じこもりがちな老人の集いの場としての活用や、若い母親同士の仲間づくりの場、さらに両者の交流の場として、開かれた公民館、利用しやすい公民館をめざし、行政と住民が膝をまじえ活動できるようなバックアップをお願いしたい。草の根のまちづくりになると思います。	
130	9	施設	舟見連絡所の2階大ホールの机が老朽化しており危険である。もっと軽量化なものにして欲しい。	
131	3	生涯学習	遊友館の活動事例として、学校や塾とリンクしないクラブ活動的なものを試行してはどうか。 （地区で編み物や手芸、囲碁など子供が興味のもてるもの）	
132	7	ふれあいバス	町営バスの全地区運用、運行。（高齢化に伴って、みんなが安心して出かけれるような）	
133	2	ふれあいバス	吉原地区に町民バスを回して下さい。	
134	2	ふれあいバス	吉原地区に町民バスを回して下さい。	

平成11年度 「まちづくり懇談会」 ご意見カード集約

No		ジャンル	内 容	備考
135	2	ふれあいバス	吉原地区経由に町民バスを回して下さい。	
136	2	ふれあいバス	吉原地区経由に町民バスを回して下さい。	
137	2	ふれあいバス	吉原地区経由に町民バスを回して下さい。	
138	3	防犯	外灯を増やして下さい。	
139	9	防犯	ひばり野小学校前の道路に、外灯を設置して欲しい。	
140	1	町並み	駅前からの中央通り線が暗いイメージが受ける。誰もが一度は見に来たいと思うようなものを建てれば良いと思う。(イルミネーション、ドームなど)	
141	4	水	入善町の良さは、なんと言ってもきれいな水です。水は生活の基盤で、なんとしても豊かな水を維持できるよう、住民あげて取り組みたいです。	
142	5	水	町の財産である水の保全と多面的な利用をする。	
143	1	観光	負釣山への登山について、入善町で一番高い山だと宣伝しているわりに、誰でも登れる山とは言にくいのではないか。新しい楽々コースの開設を望む。	
144	3	観光	道の駅を誘致し、特産品を販売する	
145	3	観光	黒部川にどんどん砂を流し、砂浜を造り、魚貝類を放流し、それらを採ったり釣ったりする場所にすればいい	
146	3	観光	文化施設が点在状態で、アクセス道路や観光客を集める駐車場が未整備なため宇奈月からの観光客を集客出来ない。農業や漁業に関するイベントも地域コミュニティにクローズしている。これらを整備し、外向けにアピールすることができれば、観光開発や雇用の増大が可能なのではないか。	
147	9	旧小学校跡地問題	小学校跡地に、町営の雇用促進住宅を是非作って欲しい。	
148	9	旧小学校跡地問題	老人のいこいの場になるように工夫を。特に、男性の横のつながり（話し合う場）が少ないので、男性が進んで集まれるような場にして欲しい。	
149	7	旧小学校跡地利用	旧梶山小学校を中心とした開発を考え、県道梶山新～小杉線の改良や県道羽入～入善線の交差点改良、保育所の改築（増設）、入善ショッピングセンター周辺の民間による開発を含めた、総合的な計画をしなければならないと思います。	

平成11年度 「まちづくり懇談会」 ご意見カード集約

No		ジャンル	内 容	備考
150	7	旧小学校跡地 利用	梶山小学校はいつでも取り壊せる。再考を	
151	7	旧小学校跡地 利用	梶山小学校の跡地又は小学校を梶山小学校とくっつけたような、デパート兼、学童保育の出来るような拠点地に出来ないものだろうか。	
152	7	旧小学校跡地 利用	高齢者と保育所が一体となった施設があればよい	
153	7	旧小学校跡地 利用	旧梶山小学校跡地の利用を考えてもらいたい。	
154	3	学校	保育所・学校給食の民間委託による財政の健全化をはかれ	
155	5	学校	西中の冬季バス通学を11月から開始して欲しい。	
156	7	通学路	11月以降は日が暮れるのが早く、下校時に地下道を通るのが怖い。8号線に横断歩道を（11月以降の利用限定）	
157	7	通学路	桃李小学校の北側の通学路（町道横山梶山新国道線）の横山用水の橋幅が狭く、拡幅をお願いします。…梶山新区長	